事　務　連　絡

平成26年1月17日

委員の皆様方　へ

学区別会議座長

河西学区長　　高野隆男（公印省略）

守山まるごと活性化プラン検討委員会〔第6回学区別会議（報告会）〕の資料について

寒さ厳しき季節、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、守山まるごと活性化プランの検討に対し、お力添えを頂き、厚く御礼申し上げます。

さて標記について、当日に使用を予定している資料を送付します。特に該当する学区の活性化プランの箇所をご確認いただき、会議当日にご持参ください。

なお、第6回学区別会議（報告会）につきましては、先日にご案内させていただいたとおり、1月22日（水）　午後7時から河西会館にて開催しますので、ご多用とは存じますがご出席いただきますようお願い申し上げます。

＜お問い合わせ＞
守山市役所　みらい政策課
担当：坪内・吉原（協働のまちづくり課 足立）
〒524-8585 滋賀県守山市吉身二丁目5番22号
TEL077-582-1162　　Fax077-583-5066
E-mail：miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

平成 26 年 1 月 17 日発行

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議の取組

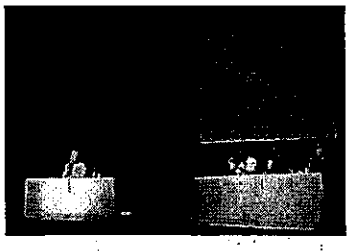
守山市では「住みやすさ日本一のまち守山」の実現を目指し、各地域の資源を活用して守山市全体の活性化に取り組む『守山まるごと活性化プラン』の策定について検討を進めています。

各地域の課題を解決しながら、人・歴史・自然など地域の資源を活用したプランを作成するために、各学区では、自治会長やまちづくり委員の方々にお集まりいただき、学区内のたからものや地域の魅力、まちづくりの課題、活性化の方法について検討を進めています。

第１回 合同会議

平成 25 年 6 月 15 日（土）守山市民ホールにおいて、第１回学区別会議を開催しました。２回目以降は、学区ごとに分かれて地域のたからものを活かしたプランを検討していただくことから、１回目は、活性化プラン策定の意義や学区別会議での検討の進め方について、みなさんに共有していただくために、全学区合同で開催しました。

当日は学区別会議の委員の方を中心に約 200 名の方が参加され、京都大学の高谷好一先生や滋賀県立大学の濱崎一志先生の講演の後、パネルディスカッションを行い、学区別会議を進める上でのアイディアについて議論しました。



第２回 学区別会議　地域の特徴やたからものの掘り起こし

第２回は６月下旬から７月にかけて開催しました。

「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明した後、「地域の特徴や良いところ」を再確認するとともに活性化の素材となる「地域のたからもの」（今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど）について話し合いました。

第３回 学区別会議　まちづくりの課題の抽出や方向性の検討

第３回は、８月から９月上旬にかけて開催しました。

学区のまちづくりを進めていく上での問題点や課題について、現状だけでなく将来も見通して抽出した後、活性化のイメージとして自分たちの学区をこんなまちにしたいといったまちづくりの方向性について話し合いました。

第４回 学区別会議　まちづくりの具体的取組の検討

第４回は、９月から 10 月にかけて開催しました。

第３回会議で話し合った学区の課題の解決に向けて、第２回会議であげられた学区のたからものを活かしたまちづくりの具体的取組について話し合いました。各学区とも多くの取組が出されました。

第５回 学区別会議　まちづくりのテーマと取組実現の方向の検討

第５回は１１月に開催しました。

これまでの学区別会議の結果を踏まえ、学区のまちづくりのテーマ（将来像）を決めるとともに、第４回会議で出されたまちづくりの具体的取組の中から、優先的に取り組むべきものを絞り込み、具体的な内容をより深く検討するとともに、取組実現に向けての役割分担や手順について話し合いました。

■ 学区別会議で決まった各学区のテーマとプロジェクト

○守山学区：**人がつながり、自然と歴史を大切にするまち**

自治会魅力向上プロジェクト／守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト／
ＪＲ東側活性化プロジェクト／水とホタルから輝くプロジェクト

○吉身学区：**吉身は目指します　自然・歴史・文化を次世代につなげるまち**

ホタルを守ろうプロジェクト／吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト／
中山道を軸とした観光促進プロジェクト／祭りだ！わっしょいプロジェクト

○小津学区：**人と水と歴史がつながる生成（きな）りのまち**

農からはじまるお付き合いプロジェクト／新守山川触れ合い環境整備プロジェクト／
水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

○玉津学区：**玉津の伝統文化を活かし、先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち**

諏訪屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化プロジェクト／赤野井湾再生プロジェク／
食の地産地消推進プロジェクト／玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト／
定住促進プロジェクト

○河西学区：**「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」未来につながるまちづくり**

野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト／近江妙蓮活用プロジェクト／
河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト／河西のみんなで「つながる」プロジェクト／
健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト

○速野学区：**受け継いできた自然と未来を見つめる人が主役のまち**
～守山の北玄関　エコミュージアム・はやの～

守山の北の玄関おもてなしプロジェクト／速野まるごとエコミュージアムプロジェクト／
びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト／大川周辺の自然環境保全＆環境学習推進プロジェクト／
いにしえの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト／みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

○中洲学区：**野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち**

野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト／みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト／
農業を元気にするプロジェクト／安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト／

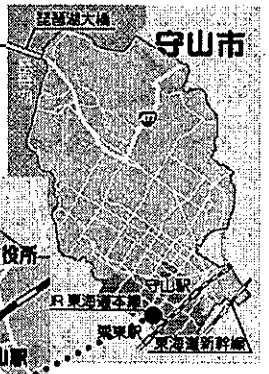
これまでの話し合いの結果をもとに、今後「学区別の守山まるごと活性化プラン」として取りまとめていきます。

■お問い合わせ
守山市政策調整部みらい政策課
〒524-8585　守山市吉身二丁目５番22号
電話：077-582-1162　e-mail：miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守 山 学 区
まるごと活性化プラン

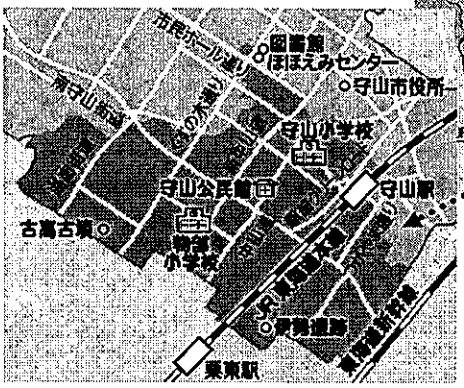
守山学区はこんなまちです

■位置



○守山市の南端に位置する守山学区は、学区の南半分が栗東市に接しています。学区内をJR東海道線が南北に走り、中心には守山駅があります。また隣の栗東駅や名神高速道路の栗東インターにも近く、交通の便がよい地域です。

○学区の大部分が市街化区域であり、市の中心市街地にあたります。京阪神のベッドタウンとして発展を続ける人口集中地域で、16自治会からなります。



■成り立ち

○伊勢遺跡が物語るように、古代には政治や文化の発信拠点として歴史の表舞台にありました。

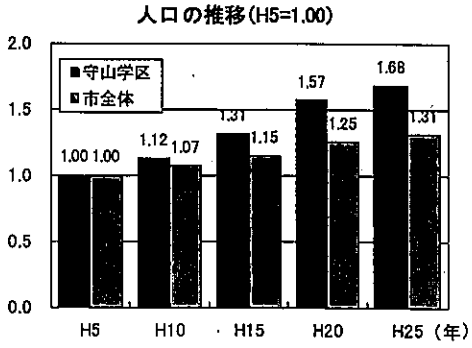
○学区の中央を中山道が通り、江戸時代には守山宿が置かれ「京発ち守山泊まり」として古くから交通の要衝として賑ったことから、多くの文化財が点在し、旧中山道沿いには宿場町の佇まいが残っています。織田信長、古高俊太郎などの歴史的人物にかかわる伝承地や旧跡、勝部の火まつりや古高鼓踊りの伝統行事なども長く保存されています。

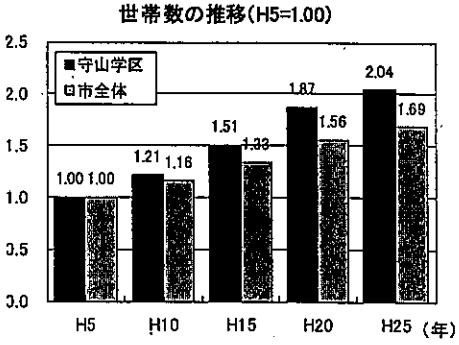
○明治時代には東海道本線守山駅が設置され、昭和初期の栗太郡物部村と野洲郡守山村の合併後は、守山学区でも都市化が進み、戸建住宅やマンションが増えています。また、市内唯一の大規模工業団地である古高工業団地のほかJR東側にも大規模工場が立地するなど、工業都市化も進んでいます。

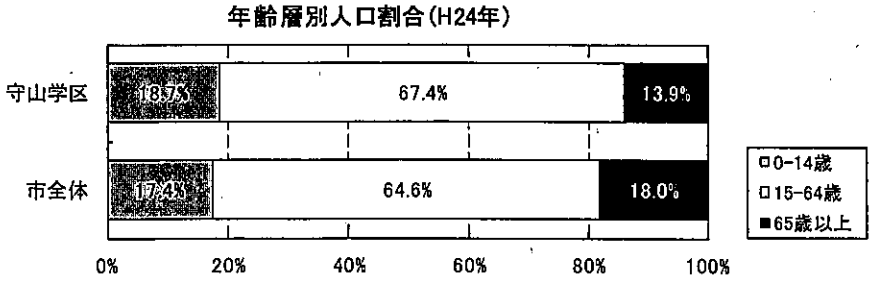
■人の動き

○人口は24,260人（平成25年）で、市全体の31%を占めます。平成5年から比較すると、人口は約1.7倍、世帯数は約2倍と市全体と比べても大きく増加しています。

○年齢別にみると、65歳以上は約14%と少なく0～14歳が約19%で、市全体と比べると若い世代が多くなっています。







地域のたからもの

守山学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■駅に近く生活に便利で、多くの人が集まる地域です

○駅に近いため交通の便がよく、また、中心市街地であるため、公共施設や商業施設も多く、生活するのに便利な地域になっています。
○火まつりや鼓おどりなどの伝統的な祭だけでなく、夏祭りなどの新しいイベントも多く開催されるなど、市内だけでなく、市外からも人も集まる地域となっています。
○市内唯一の大規模工業団地である古高工業団地のほかJR東側にも大規模工場が立地し、工業と住宅が共存しています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■人口が増加し、若い世代が増えています

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○マンションや宅地開発により、子どもや子育て世代が増えています。一方で、旧住民は高齢化が進んでおり、新旧住民の間に隔たりが生じています。
○小学校が２つあるほか、子育てサロンや子ども見守りなどの地域活動が盛んで、子育て環境が充実しています。
○自治会加入率が高く、まちを綺麗にする活動や安心・安全の活動など住民主体の地域活動が盛んに行われています。

■街道文化や神社仏閣、遺跡など歴史遺産が豊富にあります

○伊勢遺跡などの古代の遺跡があるほか、県内に唯一残る一里塚や古い町並みなど中山道関連の資源が豊富に存在します。
○各在所に寺があると言われるように、由緒ある神社仏閣が学区内に点在し、これらの身近にある歴史的なたからものが住民の愛着や誇りにつながっています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■ホタルや水など身近な自然が大切にされています

○地域の中を多くの水路や小河川がめぐり、流れるきれいな水とまちなかで楽しめるホタルを住民が大切に守っています。
○神社仏閣境内の緑などの自然も多く、四季ごとの変化が感じられる住民たちの憩いの場にもなっています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、守山学区には、人口増加に伴う、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■人のつながりが希薄化し、自治会の運営が難しくなっています

○急激な人口増加で新たな住民が増えていますが、地域への関心が低く、人づきあいの機会も減少しており、新旧住民の意識にギャップが生じています。

○共働き世代や子育て世代が多い新住民を中心に、自治会活動への参加が少なくなっています。旧住民の高齢化も進んでいることから、昔のままの自治会運営では年々立ち行かなくなってきており、また、負担の大きい神社仏閣や伝統行事の維持や保存も難しくなっています。

■急激な町の変化への対応が遅れています

○駅前にはマンションが立ち並び、戸建て住宅の開発が急激に進んだことで、古い町並みが消滅するなど、まちの景観が壊れつつあります。

○自動車交通の増加により、道路渋滞が頻繁に発生し、生活道路にも自動車が流入しています。

○市街化区域の都市化で農業が衰退し、のどかな田園風景が崩壊しています。

■ＪＲ東側にも活動拠点が必要です

○JR で学区が東西に分断されているものの、東側には核となる施設がありません。高齢者や子育て世代には JR を渡っての活動もなかなか厳しいため、JR 東側にも活動拠点が必要です。

■豊富な歴史資源が、上手く活かされていません

○伊勢遺跡や中山道関連資源など誰もがうらやむような資源が豊富にあるのに、上手く活かされていません。目玉となる食の開発や積極的な PR、情報提供により、観光の活性化につなげることが必要です。

○地域の歴史を知らない住民も多く、地域への愛着を深め、まちの将来を担う人材を育成するためにも、まずは住民が知ることから始める必要があります。

■身近な自然やホタルを守っていく必要があります

○身近なたからものである水路や小河川の水やホタルを今後も守っていく必要があります。

守山学区活性化の基本方向

守山学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき守山学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

人がつながり、自然と歴史を大切にするまち

守山学区は自治会の加入率も高く、伝統行事や自治会活動を通じた住民主体の地域活動が盛んな地域です。しかし、急激な人口増加により若い世代が増えるにつれて、地域への愛着や近所づきあいが減り、旧住民の高齢化も加わり、旧来の自治会活動や伝統行事の維持が年々難しくなっています。

まちの活性化のためには、新住民、旧住民にかかわらず、誰もが地域づくりに関わっていける仕組みづくりが必要です。そのために、地域における人のつながりを見直し、身近な自然や伊勢遺跡などの豊富な歴史資源を生かしながら、誰もが無理なく参加できるような取組を進めていきます。

＜取組の方針＞

【方針１】新旧住民の融合による「人」を中心としたまちづくり
【方針２】伊勢遺跡や伝統文化など地域の魅力を活かした観光の活性化
【方針３】きれいな水やホタルなど身近な自然の保全
【方針４】将来を見据えた計画的なまちづくり

＜まちづくりのプロジェクト＞

- 自治会魅力向上プロジェクト
- 守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト
- ＪＲ東側活性化プロジェクト
- 水とホタルから輝くプロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　自治会魅力向上プロジェクト

年々運営が難しくなってきている自治会のあり方や活動内容を見直し、学区内で連携することで、共働き世帯や高齢者など誰もが無理なく参加できる自治会活動づくりを進めます。また、子育て世代や高齢世代においても人のつながりが希薄化しているため、高齢者をはじめとする地域のマンパワーを活かした子育て支援や安全・安心活動の仕組みをつくります。

取組１　自治会運営・地域連携体制の見直し

- 自治会を考える会（仮称）を立ち上げ、自治会の運営方法の改善や地域連携体制（学区における取組内容等）の見直しを図る
- 自治会活動の横断化と連携

取組２　誰もが参加できる自治会活動づくり

- 新住民に自治会活動を情報発信し、自治会への周知と理解を促進
- 子ども同士のつながりから親世代へと、人のつながりを拡大し、共助の取組やまちづくりへの参加につなげる方法の研究と実践（自治会活動参加のきっかけをつくる）

取組３　地域による子育て支援

- 子育て環境づくりで、守山学区を「子育て推進地域」に指定
- 学校では教えてくれない地域のことや言い伝え等を地域の子ども達に教える寺子屋の復活

取組４　安全・安心活動の強化

- 命のバトン制度の普及など住民によるセーフティネットの構築
- スクールガードやパトロールの強化
- 通学路など危険な道路を住民目線で点検し、行政と一体となって対策に取り組む

B　守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト

地域に豊富にある歴史資源や伝統文化を上手く活用するために、まずは、住民が地域のたからものを知ることから始め、愛着を持つための仕組みを検討します。また、地域内だけでなく観光客をはじめ多くに人に来てもらうことで交流を生み出し、地域の魅力向上と活性化を進めます。

取組１　伊勢遺跡を活用した「わがまち」への誇りや愛郷心の醸成

- 建物の復元とアクセス道路の整備を含む区画整理事業の実施
- 地元住民が学区の歴史や伝統文化を知る努力をする
- 市内の学校で地元の歴史を学習する
- 伊勢遺跡、中山道、卑弥呼を積極的に活用し、市外に情報発信（認知度を高める）

取組２　歴史資産や伝統行事の活用・情報発信

- 宿場町や歴史的な風情を意識した景観づくりやイベントを計画

- 火まつりなどの無形文化財の継承支援のために、祭の小道具類を保管展示するとともに見学者に案内や説明する常設展示を検討
- 中山道周辺の古民家や歴史的な景観を守る制度の効果的な運用

取組３　中山道案内ボランティアの向上

- 中山道案内ボランティアの拡充を推進
- もてなす意識、サービスのさらなる向上、案内範囲の拡大等に挑戦

Ｃ　ＪＲ東側活性化プロジェクト

JR東側にコミュニティ活動の拠点がないことから、住民のまちづくりや意識づくりの拠点となる場所の整備を進めるとともに、伊勢遺跡を有効に活用しながら地域住民による東西の交流を図ります。また、工場と住宅の共存を活かして、地元の工場と連携したまちづくりを進めます。

取組１　活動拠点の整備

- 高齢者や子育て世代、若手などが集い、まちづくりへの関心（意識）や関わるきっかけづくりの拠点となる場所づくり（空家や企業の施設の活用などを研究）

取組２　伊勢遺跡を活用した東西の交流

- 伊勢遺跡を有効活用し隣接する周辺地域を巻き込んだ交流事業などを企画実施
- 伊勢遺跡の保存整備に関する施設整備の際にも周辺地域を巻き込む工夫をする（取組１活動拠点の整備についても配慮）

取組３　地元企業（工場）と連携したまちづくりの実施

- 地元の工場と連携した防災訓練等のまちづくり活動の実施

Ｄ　水とホタルから輝くプロジェクト

まちなかを水路や河川がめぐりホタルが舞うという身近なたからものを守っていくため、地域が一体となって保全・保護する活動を展開します。また、水とホタルを中心に、高齢者から子どもまで誰もが参加できるよう工夫した活動を展開することで、より多くの人々の地域への関心を高め、住民同士の交流を図ります。

取組１　水とホタルを中心としたまちづくり活動

- 住民の地道なボランティア活動を知ることで、地域の水や自然、自分たちのまちを守る意識を醸成
- 水に親しむことを意識したイベントや活動の実施（魚釣り、美化活動、生態系維持活動）

取組２　「ホタルール」の作成（ホタル保護、水環境保全のためのルールづくり）

- ホタル保護・水環境保全のためのルールづくり（タバコ喫煙の規制や除草剤散布等の規制など）
- 草刈りや河川清掃などの自治会での活動時期を調整する
- 小学校や子ども会でホタルの生態を学習し、ホタルを通じてゴミを捨てない動機付けをする
- ホタルの森資料館の協力を得て、上記の内容を盛り込んだ「ホタルール」を取りまとめ、広く発信する

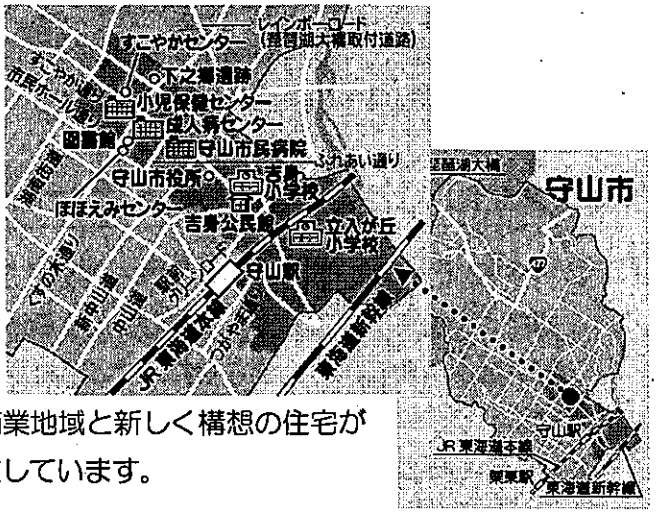
取組３　ホタル保護や水環境保全に対する積極的な意識醸成

- ホタル条例について地域住民へ情報発信

吉 身 学 区
まるごと活性化プラン

吉身学区はこんなまちです

■位置



○吉身学区は、ＪＲ琵琶湖線を挟んだ東西に長い学区です。元町、下之郷、吉身西町、吉身中町、吉身東町、岡、立入、浮気、グランドメゾン守山、レックス弐番館の 10 自治会からなります。

○学区全体がほぼ市街化区域であり、学区内には南北に琵琶湖大橋取り付け道路が、東西に中山道が通っています。また、取り付け道路沿いの商業地域と新しく構想の住宅が建設された地域、中山道沿いの古い町並みが混在しています。

■成り立ち

○吉身は「吉水」に通じ、かつては高くなだらかな丘があり湧水の豊富な地域として、『日本書紀』にも『醴泉』と益須寺の名が現れる古い歴史をもつ地域です。

○また、江戸時代には中山道・守山宿の加宿として繁栄したところで、古い町並みや由緒ある社寺からも、面影を見ることができます。

○中山道を中心とした昔ながらの商店街と高層の住宅が建ち並ぶ都会的な街並みの中に、四季折々の田園風景を残した、新旧の良さが溶け込んだ混在型の学区となっています。

○学区の西端には、弥生時代の巨大環濠集落であり、国指定史跡である下之郷遺跡があり、古代から人々が暮らしやすい地域であったことがわかります。

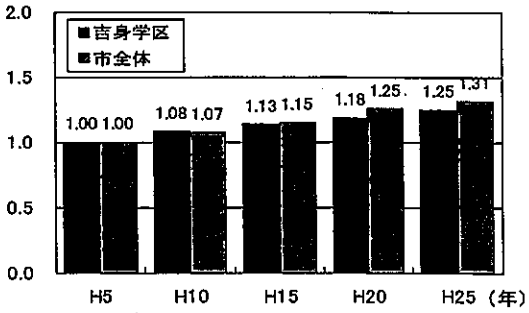
■人の動き

○人口は 16,458 人（平成 25 年）で、市全体の 20.7%を占めます。全市人口が増えていると同時に、吉身学区もこの 20 年間で約 25%増と、年々増加しています。

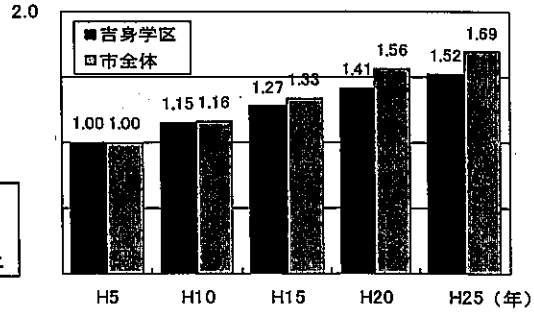
○年齢別にみると、0～14 歳が約 18%、65 歳以上は約 17%であり、市全体とほぼ同様の傾向にあります。

○1 世帯あたりの人口は 2.6 人で、20 年間で 3.2 人から 0.6 人減少し、核家族化やひとり暮らしの家庭が増えていることを物語っています。

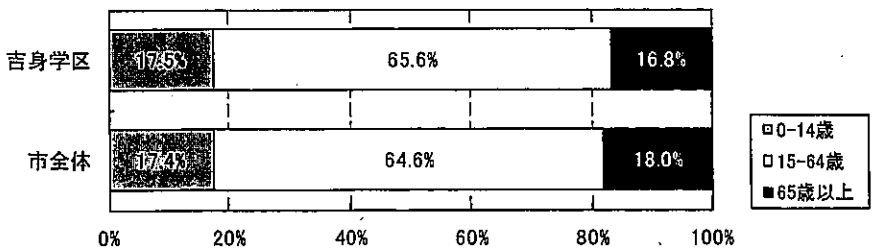
人口の推移(H5=1.00)



世帯数の推移(H5=1.00)



年齢層別人口割合(H24年)



地域のたからもの

吉身学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■ホタルや水など自然を残したまちです

○今宿川や石田川、吉身川などのまちをめぐる河川や水路、立入水源地などの湧き水など、生活に密着した水資源があります。
○豊富な水資源により、まちなかでホタルを見ることができます。また、ハリオの再生がはかられています。
○水辺周辺には、桜並木や藤などがみられ、四季折々の季節感が感じられる環境にあります。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■中山道関連の街道文化や社寺、遺跡など歴史遺産が豊富です

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○中山道にまつわる史跡や新川神社や東福寺、慈眼寺、馬路石邊神社などをはじめとするお寺、神社、祭など歴史ある地域資源が数多く残っており、日常生活において歴史を身近に感じられる環境にあります。
○地域の祭のうち、住吉神社の火祭り、馬路石邊神社の豊年祭りは伝統行事として有名で、祭りの開催時には多くの観光客が訪れます。
○弥生時代の巨大環濠集落として著名な下之郷遺跡や吉身西遺跡、寺山古墳など多くの遺跡が残っており、体験学習や地域活動の場として活用されています。

■公園や広場などの人が集まる施設が充実しています

○ふれあい公園や立入公園、たこ公園など、様々な特徴を持った公園が集積しており、地域に親しまれています。
○河川沿いには、自転車道や河川敷公園、立入河川広場などが整備され、生活に密着した水資源の存在を感じられる環境にあります。

■人がつながる活動が行われています

○グランドメゾンや都賀山荘、守山駅（東口）、駅前公園噴水などの人が集まる施設が集積しています。
○歴史ウォークや子ども御輿、歩こう会、バーベキュー大会など住民主体の地域活動が行われています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、吉身学区には、人口増加・少子高齢化という大きな流れを下敷きにした、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■住宅開発により自然や広場などが減少しています

○住宅開発により、竹藪などの緑地や子どもの遊び場である空き地などが減少しています。また、三上山の眺望がなくなるなど、のどかな風景がみられなくなってきています。

■ＪＲにより地域が分断されているほか、交流の場が不足しています

○吉身学区は、JR 琵琶湖線により地域が分断されているため、東西を行き来する通路が限られています。

○人口が増加しているものの、自治会館などの集まる場が新しく整備されていないことや東側に交流の場がないなど、交流の場が不足しています。

■自動車による交通問題などが発生しています

○取り付け道路を利用する自動車が多いため、それを避けるべく学区内の細い街路をすり抜けるなどの自動車マナーの低下や、野洲川を渡る橋の交通渋滞の発生など、自動車による交通問題が発生しています。

■道路や公園、河川などの施設の充実・整備が求められています

○交通安全確保のための通学路や街灯などの整備が求められています。

○人口増加にともない、図書館や病院、河川公園などの施設の充実が求められています。

■地域資源の有効活用が求められています

○中山道にまつわる史跡や神社仏閣、遺跡など歴史ある地域資源が数多く残っていることから、地域を盛り上げるための地域資源の有効活用が求められています。

○歴史や自然など魅力ある地域資源が多く残されているが、その魅力に気付かない人や無関心な人が増加しているように感じています。

■新旧住民のつながりの弱さにより地域活動の担い手が不足しています

○集合住宅の立地により新住民が増加しているものの、つながりの希薄化により、新旧住民のつながりが弱くなっています。

○新住民の自治会活動の不参加により、自治会役員の新旧交代がしにくく、役員の高齢化が進んでい

ます。

吉身学区活性化の基本方向

吉身学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき吉身学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

吉身は目指します
自然・歴史・文化を次世代につなげるまち

吉身学区は、中山道を中心とした昔ながらの商店街と高層の住宅が建ち並ぶ都会的な街並みの中に、四季折々の田園風景を残した、新旧の良さが混在した地域です。その半面、開発が進んだことにより、自然の減少、交流の場の不足、新旧住民のつながりの弱さによる地域活動の場所や担い手の不足など様々な問題も発生しています。

まちの活性化のためには、新旧住民が共にまちづくりを進めていくことが大切です。このため、ホタルや豊かな水資源、住吉神社や下之郷遺跡、中山道などの自然・歴市・文化のたからものを活かした取組を行い、これを通じて住民同士がつながり、たからものを大切に次世代へとつなげることのできるまちづくりを進めていきます。

＜取組の方針＞

【方針１】自然・景色に恵まれた新しい時代の里づくり
【方針２】子どもやおじいちゃん、おばあちゃんが安心して行動できるまちづくり
【方針３】あちこちにいつもみんなが集まる場所のあるまちづくり
【方針４】中山道をはじめとする地域遺産を活かした歴史を感じられるまちづくり
【方針５】だれもが気軽に参加して地域を盛り上げるまちづくり

＜まちづくりのプロジェクト＞

- ホタルを守ろうプロジェクト
- 吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト
- 中山道を軸とした観光促進プロジェクト
- 祭りだ！わっしょいプロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　ホタルを守ろうプロジェクト

吉身学区には、今宿川や石田川、立入水源地など、豊富な水資源を有しており、その水辺にホタルやハリオなどが生息しています。まちなかにおいて、このような環境があることは、とても貴重なことです。残された自然を大切にするため、ホタルや田畑や川などの残された自然を活かし、地域が自然と親しみ、守り育てるための仕組みをつくります。

取組１　ホタルを守る（自然を大切にする）ための仕組みづくり

- イベントや勉強会のほか、ごみ拾い等も行う
- ホタルを守るクラブ活動に取組、活動結果を夏祭りや自治会館等で展示する
- 自動車のライトが川に影響しないようにパネル設置を行う
- ホタルのえさ（カワニナ）を保全する
- 川の法面に土を残す工法を採用する
- 自然を守るルール等について研究する

取組２　ホタル祭りの開催

- ホタルが飛ぶ時期に各自治会等で住民手作りの交流イベントを開催する
- ホタル鑑賞の夕べや鑑賞ツアーを実施する

取組３　自然に親しむイベントの開催

- 川遊びや魚つかみ、水生生物学習会などの開催

取組４　水辺の遊歩道（ホタルロード）づくり

取組５　自然に親しむ環境づくり

- 河川沿いの緑地の確保（ホタルの保護、遊歩道整備など）

取組６　開発と保全のバランスをとる

- 民間開発が進む一方で自然を保全する意識（配慮）を醸成する

B　吉身の歴史・伝統をつなぐプロジェクト

下之郷遺跡や中山道のほか、新川神社や東福寺、慈眼寺、馬路石邊神社などの数多く残る神社・仏閣、歴史文化資源を活かし、吉身の魅力を学区内外の人によりよく知ってもらうとともに、住民が地域に誇りや愛着をもち、歴史・伝統・文化を次代に引き継ぐための取組を展開します。

取組１　歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- 住民が地域の歴史を知る（町名の由来を調べる）
- 住民が訪問者にまちを紹介できるようにする（吉身まち歩きコースの設定やマップ作成、まち歩きイベントに参加しながら、少しでも話ができるようになる）
- 小学校の先生等に地域の歴史を知ってもらう（小学校への啓蒙活動を行う）

- 紙芝居を作成する

取組２　下之郷遺跡を活用した住民主体の憩いの場づくり

- 下之郷遺跡の既存施設を有効活用し、住民が主体となったまちづくり拠点としての活用方法等を検討

取組３　下之郷遺跡を軸とした交流活動の活性化

- 下之郷遺跡だけではなく、他の史跡についても併せて有効活用し、住民の憩いの空間や交流の機会をつくる取組を実施する（まち歩きやフリーマーケットなど）

取組４　吉身まちあるきコースの設定、マップの制作・配布

- まちを探検する
- コースに名前をつける
- 歴史資源を知ってもらうコースだけでは無く、健康づくりで活用できるコースについても設定する
- コースを明示したマップを制作する毎に紹介する

取組５　吉身まちあるきイベントなどの開催

- 若い人に参加してもらうための仕組みづくりを行う
- NPO の立ち上げなどの継続するための仕組みづくりを行う
- 成功例について紹介してもらう
- 他のイベント（火祭りなど）についても活用する（祭り観賞まちあるきなど）

Ｃ　中山道を軸とした観光促進プロジェクト

吉身学区及びその周辺の学区に多く残っている中山道に関連する史跡を活用し、吉身学区のまちの風土や魅力を学区内外の人によく知ってもらうとともに、住民が地域に誇りをもって生活できるよう、まちを知る機会や、まちの魅力を磨き高める取組を展開します。

取組１　中山道ウォーキングコースの設定、マップの制作・配布

- もっと観光客が来るように情報発信する
- インターネットで情報発信する

取組２　中山道ウォーキングイベントなどの開催

- JR や旅行会社と連携し取り上げてもらう
- イベントでは市や地域の商業者とも連携することを意識する
- 住民全員がガイドになれるようにする
- 自治会で中山道関連の歴史について学ぶ機会を提供する

Ｄ　祭りだ！わっしょいプロジェクト

地域の取組に対し無関心な若い人にも地域行事に参加してもらうほか、JR により分断されている地域を含め、人口増加にともない希薄化した住民同士のつながりを強くするため、伝統ある祭りや学区民の集いなどのリニューアルや工夫したイベントの開催に取り組みます。

取組１　学区民のつどいのリニューアル

- 子どもが参加できるプログラムを構築する

取組２　伝統ある行事を盛り上げる

- 祭りの世話役と話し合い、サポートできることを把握する
- 夜店などの出店を行う

取組３　イベントの開催

- 地区対抗別運動会を開催する
- 定期的にイベントを開催する（季節毎、季節の変わり目）
- 情報発信を徹底する（内容（日時、場所など）の明確化、自治会を通じての周知）
- 当番制での開催

取組４　吉身の行事・イベントの情報発信

- スタンプラリーを開催する

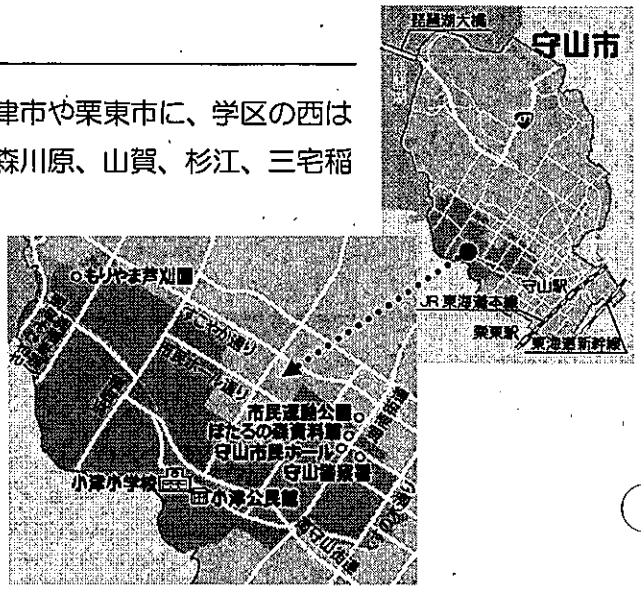
取組５　子どもが楽しく遊べる場づくり

- 日よけや水辺を整備する
- ルールを徹底する

小 津 学 区
まるごと活性化プラン

小津学区はこんなまちです

■位置



○小津学区は、守山市の西部に位置しており、南は草津市や栗東市に、学区の西は琵琶湖に接しています。金森、三宅、大林、欲賀、森川原、山賀、杉江、三宅稲葉、金森山柿の９自治会からなる地区です。

○東部の一部を除く大部分が市街化調整区域となっています。また、学区の東側は市民交流ゾーンに位置づけられ、市民生活に潤いと憩い、快適な時間の流れによる豊かさをもたらす都市文化創造空間としての環境整備が推進されています。

○学区の南や東を中心に 1970 年代から宅地開発が進み、また、西側の地域では旧集落が集まり田園風景が広がっています。

■成り立ち

○小津学区は、古くから沃野の農耕地域として、また、学区内を通る志那街道や中山道と志那港や赤野井港などの湖上交通の拠点を結ぶ交通の要衝として発展してきました。

○中世には、金森合戦を経た後、金森御坊を中心とした寺内町として栄えました。地域に伝わる文化財や地名、遺構等が当時の歴史を物語っています。

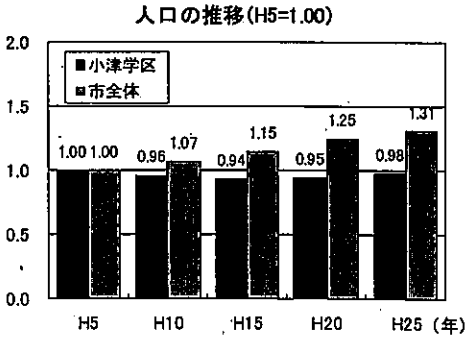
○現在では、守山中・高等学校や立命館中・高等学校といった教育施設や、市民ホール等の主要公共施設等が学区内に位置し、また、新たな住宅地建設も行われています。

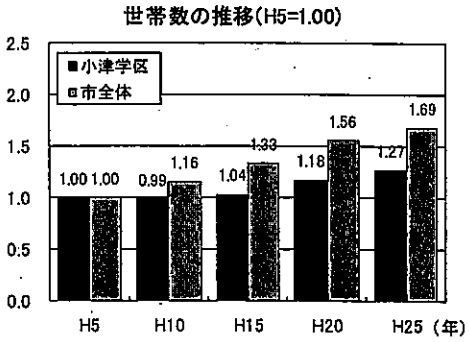
■人の動き

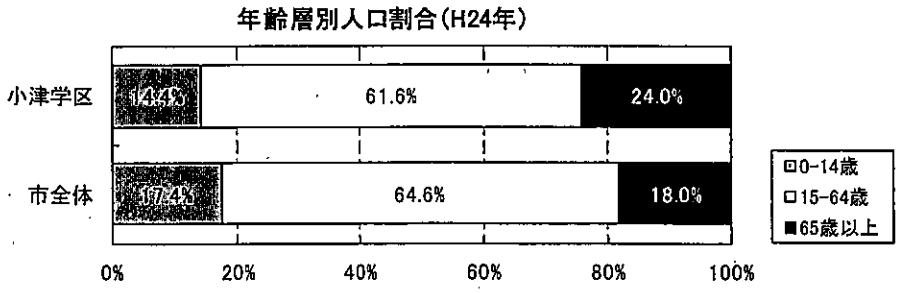
○人口は 5,903 人（平成 25 年）で、市全体の 7.4%を占めています。市全体の人口増加に伴って、小津学区においても、人口はこの 10 年間で約 5%増加しています。

○年齢別にみると、0～14 歳が約 14%、65 歳以上は約 24%であり、市全体と比べるとやや少子・高齢化が進んでいます。

○宅地開発が進む学区の南や東の地域では人口が増加する新興地域となっている一方、旧集落が集まる西側の地域では人口の減少により高齢化が進行しています。







地域のたからもの

小津学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■ホタルや水、田園風景など自然があふれています

○学区は境川と旧野洲川の中洲に位置することから、学区内を多くの川が流れており、また、小津袋のような湖岸の水環境と合わせて、水がいつも生活とともにあるまちとなっています。
○きれいな水が身近にあることから、川にはホタルが飛び交い、鯉やカモが泳いでいます。
○三上山や対岸の比叡山の眺望と美しい田園風景が素晴らしい、自然の豊かさも大きな特徴となっています。また、芦刈園や新守山川の桜など、季節を感じる花が豊富にあります。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■先人たちより、歴史や伝統を受け継いでいます

○蓮如上人ゆかりの金森御坊や、小津神社に代表される由緒ある神社仏閣、その他歴史的な遺跡などが多く残っています。
○志那街道や中山道といった歴史的な街道が交わる交通の要衝であり、重要な建造物等に恵まれています。
○地域には、国選択無形民俗文化財にも指定された長刀祭が伝わっています。琵琶湖の氾濫により湖中へ流失した神霊を迎えた際、氏子らが踊りを奉納したことが始まりと言われています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○

■人と人が絆でつながっています

○高齢化の進む既存地域と新規住民が増えている新興地域とがありますが、新旧の住民が上手く連携して生活を営んでいます。
○住民間の連帯意識が強く、自治会活動やお祭りなどの地域行事が盛んに行われています。

■安心・安全で住みよい住環境です

○古来より、街道が交わるなど交通の便の良い地域であるとともに、守山の中心地として公共施設が充実していますが、田園風景や自然が豊富に残り、のどかで住みやすい環境となっています。
○野洲川の改修を経て水害が無くなり、自然災害の被害を受けることは少なくなりました。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、小津学区には様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■川や琵琶湖の環境が悪化し、ホタルの生育環境も減少しています

○小津袋や赤野井湾内湖の水質が悪化し、外来魚やヨシ・ヒヨシが氾濫しています。また、雨水とともに多量のゴミが流れ込み、滞留することもあります。

○自生環境の減少などにより、ホタルの生育が困難になっています。自生のための水や草を維持することも必要です。

■地域についての知識が不足するとともに、祭りの継続・継承が困難になっています

○地域の歴史や地域環境、文化等について知識が無い人が増加しており、地域のアイデンティティをどのように維持・継承していくかが課題となっています。

○長刀祭を自治会中心に世話していくことが困難な状態になりつつあり、継承方法を模索する必要があります。

■地域のコミュニティや施設等の維持・管理が困難になっています

○住民同士が気軽に集まれるような場所が減少しています。また、子どもを安心して遊ばせることができる場所も少ない状況です。

○公園や道路脇に生える雑草などに、自治会が行う清掃活動のみで対処することは困難です。

■地域づくりを担う人材が少なくなってきました

○少子化・高齢化の進行に伴い、地域づくりに関する様々な役割を担える人材が減少しています。

○個人主義的な考え方が浸透するとともに、地域の活動への積極性が希薄化しています。

■農業の担い手が少なくなってきました

○農業離れが進み、後継者が不足しています。

■交通環境の改善が必要です

○交通量の増加に伴い、近道のため生活道路に入込む車があり、危険な状況が発生しています。

○該当が少なく、歩行者にとって暗く怖い場所があります。

○公共交通の便が悪く、地域外へ出て行きにくい状況があります。

小津学区活性化の基本方向

小津学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき小津学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

人と水と歴史がつながる生成（きな）りのまち

小津学区は、古来より交通の要衝、寺内町として、様々な人や物が行き交う、交流が盛んな地域でした。また、肥沃な大地や琵琶湖や川の水資源が、生活・産業・文化など地域活動の基盤となってきましたが、時代とともに、人から車への往来の変化、自然との触れ合い環境の減少、宅地開発による住民交流機会の増加など、まちの環境は様々に変化しています。

小津のまちの活性化に向けては、現在まで地域活動の基盤となってきた人・水・歴史といった地域固有の魅力を再認識しながら、飾ることなく自然な気質を活かす「生成（きな）り」の考え方で、環境の変化に合わせ末永くまちづくりに取り組んでいきます。そして小津の魅力を地域皆が共有し、地域の外へ、また次世代へ継承していけるようなまちをめざします。

＜取組の方針＞

【方針１】新守山川や小津袋に親しむ憩いと健康の環境づくり
【方針２】多くの世代が地域の歴史・文化と親しみ、身近な魅力からつながる環境づくり
【方針３】生成りから始める推進体制づくり
【方針４】農業に触れるきっかけや制度づくり
【方針５】地域皆が架け橋となり、安心・安全な定住を促進する取組み

＜まちづくりのプロジェクト＞

- 農からはじまるお付き合いプロジェクト
- 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト
- 水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　農からはじまるお付き合いプロジェクト

将来の農業の担い手の育成と支援、また地域風土の良さを次代を担う子どもたちや地域住民に伝えるため、学区内で利用可能な田畑を整理・活用し、農業体験や販売所、貸し農園などを展開することで、農業をきっかけとした学区内外の住民の交流を図ります。

取組１　田畑を活用した農業体験イベント

- 子どもが楽しみながら農業に親しむことができるイベントの開催

取組２　野菜販売所の開設と、複数の販売所を結ぶ案内図の作成

- 複数の販売所が解説できた際には、各販売所で異なる野菜を販売することを検討したり、他の販売所の紹介、旬の野菜を紹介するなど連携を図る
- 公民館や自治会館等を活用した野菜の販売スペース（販売所）の解説
- 定期的な開催についても検討（朝市など）

取組３　貸し農園の開設と利用者同士や地域との交流の場づくり

- 地域の遊休農地を貸し農園として活用
- 利用者同士や地域住民との交流も実施（農業体験や収穫祭など）

取組４　農業の担い手の募集と、初期支援

- ・県外などから農業の担い手を募集し、参画を支援するとともに、担い手として育成

B　新守山川触れ合い環境整備プロジェクト

住民同士のつながりを強めると共に、川や琵琶湖の環境を守る意識を高めるため、小津学区を流れる新守山川を活用し、地域住民が協力しあって桜並木や花畑、河道の整備に取り組みます。また、イベントの実施などを通して、自然とふれあい、愛着を持つ住みやすい風土づくりを推進します。

取組１　イベントや活動の実施

- お花見イベントや、川をきれいにする活動の展開

取組２　桜並木の遊歩道や自転車道の整備

- 住民が中心となって植樹を実施
- 桜並木の中、訪れた人がゆったりと歩ける遊歩道や自転車道づくり

取組３　河道の整備

- 人が川に入り、水を中心とした自然と触れ合うことができる環境づくり

取組４　四季を通して憩える環境づくり

- 環境を破壊しない、自然な水環境づくり
- 水辺の散策路を整備し、行き交う人が春夏秋冬を通して憩う場の創出

取組５　芦刈園をビオトープとして活用

- 四季の花を植え、散策路や遊歩道として活用

取組６　環境学習拠点として集落排水施設を活用

- 山賀内湖と共に活用。魚釣りやカヌー教室の実施

取組７　グラウンドゴルフコースの設定

- 新守山川河川敷にグラウンドゴルフコースを整備

取組８　ホタルの育成・保護を通したホタルと触れ合う環境づくり

- ホタル観賞ルートの延長
- 夏の夜を楽しむルートづくり
- 他季節のイベントと連携し、年中お祭りがあるコミュニティづくり
- 自治会で「ホタル保護区」を設定し、有志で推進

Ｃ　水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

寺内町にゆかりの地名や、蓮如上人や小津神社といった地域の歴史を物語るたからものなど、小津に数多く残る昔のなごりの魅力を再発見・再整理し、楽しみながら地域を知り、愛着を深めることができる取組を検討します。また、地域の歴史を紐解きながらPRしていくことで、住民の地域への愛着の醸成を図ります。

取組１　小津の地名とその由来の再発見

- 昔からの地名を収集・整理し、地域の歴史を再発見

取組２　水資源と歴史資源との関係性を紐解く

- 金森長近、蓮如と門前町、信長と一向一揆、環濠などのまちの歴史と、小津の歴史や水の歴史を紐解く

取組３　魅力の再発見・再整理のための勉強会の実施

- 歴史的な魅力を伝える看板や標識などの作成を目指し、住民みんなで地域のたからものを整理することで、地域への愛着や住民同士のつながりを醸成

取組４　四季の花や祭と連携したマップ・コースづくり

- 「新守山川触れ合い環境整備プロジェクト」と連携し、地域の魅力（四季の自然や風物詩など）や散歩コースなどをマップにまとめ地域住民が活用する

取組５　ウォークルートの設定

- 史跡やゆかりの地等を結ぶ魅力的なウォークルートの設定
- 散歩コース（健康づくり）、探検コース（まちを知る）などを検討
- 市内全域をつなぐルートも検討

取組６　若い世代も楽しめるイベントの実施

- 児童が楽しく学習しながら参加できるスタンプラリーやウォークラリー等の開催

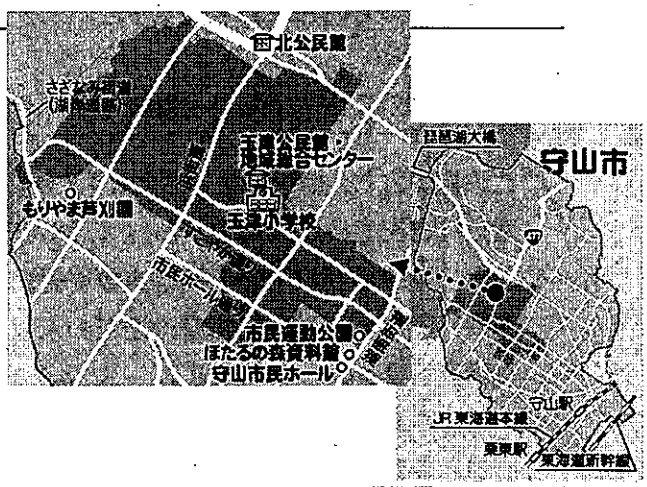
玉 津 学 区
まるごと活性化プラン

玉津学区はこんなまちです

■位置

○玉津学区は、守山市のちょうど真ん中に位置し、学区の西はわずかに琵琶湖に接しています。赤の井、矢島、石田、十二里の4自治会からなる地区です。

○学区全体が市街化調整区域であり、浜街道沿線の集落のまわりにのどかな田園地帯が広がっています。東側の石田は市民運動公園を含む市民交流ゾーンに位置し、宅地化が進んでいます。



■成り立ち

○古くからの農業地域であり、赤野井には条里制以前の地割り、十二里には条里制の地名を残しています。

○足利義昭の矢島御所、一休和尚ゆかりの少林寺、蓮如上人の聞光寺など歴史を物語る豊かな文化財に恵まれ、赤野井には、東西両本願寺の赤野井別院や諏訪家屋敷を中心に寺院や屋敷が集まり、商家も見られ寺内町的な雰囲気が味わえます。

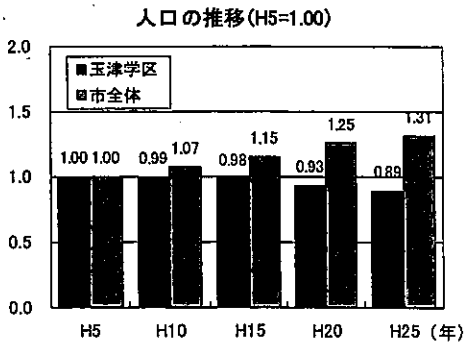
○赤野井はかつて琵琶湖の湖上交通の港として役割を果たしました。佐々木氏が京への近道として整備した佐々木街道、明治時代に中山道と大津・堅田方面の物資を運搬するために運河として整備した石田川が流れ、今も川岸に船を引く船引き道や野洲浦港跡等が残っています。

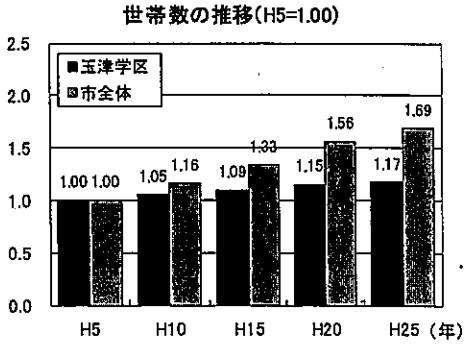
■人の動き

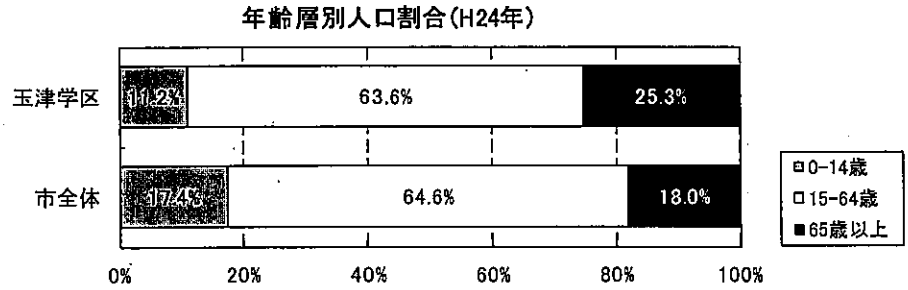
○人口は 4,025 人（平成 25 年）で、市全体の 5.1%を占めます。全市人口が増えているのに対して、玉津学区はこの 20 年間で約 11%減と、年々減少しています。

○年齢別にみると、0～14 歳が約 11%、65 歳以上は約 25%であり、市全体と比べると少子・高齢化が進んでいます。

○1 世帯あたりの人口は 3.1 人で、20 年間で 4.0 人から 0.9 人減少し、核家族化やひとりぐらしの家庭が増えていることを物語っています。







地域のたからもの

玉津学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■人と人のつながりが強い地域です

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○どの自治会も、地域の中での人と人のつながりが強いことが特徴です。新しく居住された住民のいる地域でも同様で、みんなが協力的です。

○昔から受け継がれてきた請や火事見舞いなどの助けあい組織・仕組みが残っています。特に祭が、地域の人をつなぎ住民が一体感を感じられる催し事となっています。

○また、子育て・高齢者サロンや子ども文庫など、現代の助け合い活動も盛んです。

○農村地域で労力を奉仕することに抵抗を感じないということもあり、ボランティア精神や地域での協力精神が豊かな土地柄となっています。

■さまざまな歴史・伝統・文化が伝えられています

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○諏訪屋敷や東西別院をはじめとするお寺、神社、祭など歴史ある地域資源が数多く残っており、地域住民のまちへの愛着・誇りに繋がっています。

○湖岸付近には、かつて港、廻船問屋、旅館などがあり、蒸気船の出入りもあって賑わった歴史があり、今もその名残を感じる場所・施設がみられます。

○くらしや仕事を物語る、石田の七曲り、狐塚などの言い伝え、わら細工など仕事などが多く伝えられています。

■豊かな自然と住みやすい環境に恵まれています

○自然豊かな地域であり、水路や周辺の緑、ホタルなどの生物に恵まれ、四季折々の季節感が感じられる環境にあります。

○水、空気、人間、交通の便がよく住みやすい環境にあります。

■地域らしさを感じる産物やくらしがあります

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○昔ばなしとともに受け継がれた「矢島かぶら」を漬物にした伝統料理、鮒ずし、守山メロンなどの特産物・特産品があります。

○玉津小学校では玉津大発見という地域を知るための授業を実施しています。

現在のまちの課題

一方で、玉津学区には、人口減少・少子高齢化という大きな流れを下敷きにした、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■人と人のつながりが希薄になり、地域の担い手も不足しています

○親戚、近所つき合いや助け合いの精神が薄くなり、個人主義で自己中心的な若者も多くなってきました。地域の連帯感が薄くなり、地域団体の解散も見られます。

○地域行事への若者の参加が少なく、祭りの神輿をかつぐ人も少なくなっています。自治会単位での行事もしにくくなっており、守山市内で唯一の「学区民大運動会」の継続も難しくなっています。

■若者が残り新しい住民が転入しにくい構造です

○市街化調整区域で新しく宅地をつくりにくいため、若い人が出て行き、外来者も転入しにくくなっています。昔ながらのつきあいなどが重荷になることもあり、新旧住民が共存できる意識や制度の見直しも必要です。

■地域の産業の元気がなくなっています

○農業・漁業を志向する若者が少なく後継者が不足しています。六次産業化などで地域の産業を元気にすることが必要です。

■川や琵琶湖などの水辺の自然が失われてきました

○地区内の川に水が流れておらず赤野井湾の水質が悪く、外来水生植物（オオハナミズキンバイ）の増殖も問題であり、水量・水質・水環境の回復が必要です。

■基本的な生活環境の改善が必要です

○飲食店や買物をする店の不足、防犯灯、公園、道路改修など生活インフラ整備、公共交通の便の悪さや自動車の増加による事故への対応が必要です。

玉津学区活性化の基本方向

玉津学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき玉津学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

玉津の伝統文化を活かし、
先人の暮らしの知恵を子どもたちに引き継ぐまち

玉津学区は古くからの農業地域として、人と人、人と地域のつながりが強く、これが生活、産業、文化など地域の活動を支えてきたまちです。しかし人口が減ってお年寄りが増え、住民の意識も都市的なものに変わってきており、地域への関わり方が希薄になってきました。

まちの活性化のためには、住民がまちに誇りを持ち地域づくりに関わっていけることが大切です。そのため、自然や先人が残してくれた有形無形の財産を見直し、その魅力やこめられた知恵を発掘し、地域内外の人の交流や産業の活性化に活かす取組を進めていきます。この取組を通じて、玉津の価値を高め地域の財産を未来へと手渡していくとともに、人と地域の新たなつながりや地域づくりの動きが広がっていくことをめざしていきます。

＜取組の方針＞

【方針１】伝統を伝え、賑わいを生む玉津の魅力を活かしたまちづくり
【方針２】赤野井湾を中心とした水と自然のネットワークの再生
【方針３】交流を活かした農業漁業が元気な玉津の産業づくり
【方針４】住民が住み続けたい・新しい人が転入しやすいまちづくり

＜まちづくりのプロジェクト＞

- 諏訪屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活用化プロジェクト
- 赤野井湾再生プロジェクト
- 食の地産地消推進プロジェクト
- 玉津ホタル祭り、イベント推進プロジェクト
- 定住促進プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　諏訪屋敷をはじめとする玉津の歴史・伝統文化活性化ＰＪ

地域で大切にしたい貴重な財産である赤野井の諏訪屋敷を再生し、守るため、まちづくりの拠点とするとともに、地域住民・ボランティアを主体とする取組を通じて、まちづくり活動の担い手を育てる場としても活かします。また、諏訪屋敷を中心に玉津学区の隠れた名所を発掘し、多くの人に楽しんでもらう仕組みをつくります。

取組１　諏訪屋敷を活用した住民主体の憩いの場づくり

- 諏訪屋敷の整備・再生（茶室の整備・修景など）
- 諏訪屋敷をフィールドとした住民活動の促進（花いっぱい運動など）
- 地域住民・ボランティアによる維持管理・運営など

取組２　諏訪屋敷を軸とした農村文化まるごと体験

- 諏訪屋敷などの古民家を活用したまちづくりの推進
- 守山の農村生活文化の伝承
- 地域住民がもてなす農村文化体験型プログラムの検討

取組３　地域の新しい特産物の開発販売

- 諏訪屋敷周辺の遊休地を活かした生きがい農園花壇の整備
- 農産物等の販売・品評会・自然の恵みの感謝祭、フリーマーケットなどの開催（諏訪屋敷のイベントとして）
- 玉津の特産物を活用した料理教室・試食会の開催（諏訪屋敷のイベントとして）

取組４　玉津の隠れた名所の掘り起こしと名所選定、手作りツアーの実施

- 諏訪屋敷などを巡る歴史街道ツアーの企画
- 諏訪まつりの検討
- 玉津を歩こう会、お宝発見ツアーの開催
- ガイドブックの作成
- 名所案内板の設置

取組５　歴史・伝統文化の語り部の育成と活躍の場づくり

- 歴史・伝統文化にかかる文献整理・写真記録、言い伝えの掘り起こし、神社・お寺との連携
- 玉津の歴史・伝統文化の語り部の養成
- 語り部などが活躍できる機会や場の創出
- 長刀祭などの伝統ある祭の活性化（集落共同出演・運営組織の連携など）
- 歴史街道ツアーの開催

取組６　玉津の伝統文化の遊びを次代に伝える仕組みづくり

- 地域の神社・お寺・鎮守の森などにある自然素材でつくる懐かしの遊びの復活・イベント化
- 各地域の行事（夏祭り）などのリレーイベント化

Ⓑ 赤野井湾再生プロジェクト

湖岸の歴史と生活文化の記憶を今に伝える赤野井湾の水運遺構（えり市、えり寅、湊屋、廻船問屋、田舟、えり漁法）を活用して、多くの人が琵琶湖の歴史と生活文化を学べる機会を創り出すとともに、赤野井湾漁業と連携を図りながら、まちの魅力を磨き上げる取組を進めます。

取組１　赤野井湾漁業の観光資源化

- 赤野井湾の水質の改善
- 観光漁業の導入

取組２　水運遺構の歴史・水辺の活用、遊歩道づくり

- 水運遺構の歴史再発見（案内看板等の設置や歴史の語り継ぎ）
- 琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ水辺の遊歩道づくりの検討
- 五感を使った琵琶湖の自然を学べる仕組みづくり（自然体験基地づくり、探検ツアーの開催、心身の健康づくりと癒しの場の創出など）

Ⓒ 食の地産地消推進プロジェクト

地元の農産物の利用を進め地域の産業を活性化するため、新鮮・安全・つくり手の顔の見える安心食材の地産地消を推進するとともに、新たな加工品・商品を開発し、その過程をみんなで楽しめるイベントなどを行います。

取組１　湖魚・地元農産物の地産地消の促進

- 地元の食材によるグルメイベントの開催
- 料理教室・調理実習の開催
- 湖魚をおいしくいただくメニューの開発
- 農産物生産者等の共同チームによる直場所等への出品検討
- 農産物の品評会の開催

Ⓓ 玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト

地域で大切にしたいホタルや伝統文化を後世に伝えていくため、各自治会が連携し、市民運動公園や地域の神社、諏訪屋敷などの名所を活用し、伝統ある祭りや学区民の集いなどの機会を通じて、玉津を学区民全体で盛り上げるイベントを推進します。特に守山市のシンボルでもあるホタルを活かしたまちづくりを全市的に広めていくためホタル保護区を設定、環境整備を行って、運動公園までのホタル観賞観光客を玉津学区まで呼び込める仕掛けをつくります。

取組１　天神川などをホタルの保護区として整備・情報発信

- 天神川の水量の確保
- 小学校のホタル育成活動との連携
- 自然に配慮した河川護岸の導入検討

取組２　玉津ホタル祭りの企画

- 玉津ホタル祭りの企画
- 他地区のホタル祭りとの連携

取組３　みんなで楽しむイベントの企画

- スタンプラリー・クイズ等のイベントの開催
- 自然に配慮した河川護岸の導入検討
- 市民運動公園内の天神川を利用した魚つかみ大会、たからもの探し大会・フリーマーケットなどのイベントの開催
- 自治会連携による学区全体としてのイベントの開催（一本こうじ相撲大会など）

取組４　伝統ある行事を盛り上げる

- 長刀祭などの伝統ある祭りを市民誰もが参加できる祭りにするなど盛り上げる方法を検討（広く参加者を募る事や集落共同出演にする事で見学者の増加や地域間の交流を期待）

取組５　玉津の行事・イベントの情報発信

- 玉津情報発信パンフレット・マップの作成、インターネットによる情報発信（ホームページ作成）

Ｅ　定住促進プロジェクト

少子高齢化が進む社会情勢を念頭に、地域の活性化を図るため、新しい住民の受け入れ態勢、今住んでいる人がより住みやすくなるよう社会慣行のあり方を、地域が主体となって見直します。

取組１　地区計画の検討・調整区域の見直し

- 定住促進に向けた法制度の検討

取組２　生活慣行の見直し

- 地域住民がより住みやすくなる地域社会の生活慣行のあり方の協議・必要な見直し

取組３　将来のまちづくりに向けた協議の場への若者の参加促進

- まちづくり活動への若者の参加促進・協議の仕組みの工夫

取組４　住民の安全・安心を確保できる環境整備

- 高齢者・障害者・子ども・子育て家庭などの仲間づくり、居場所づくり
- 地域の安全・安心創出活動（関係団体の連携強化）

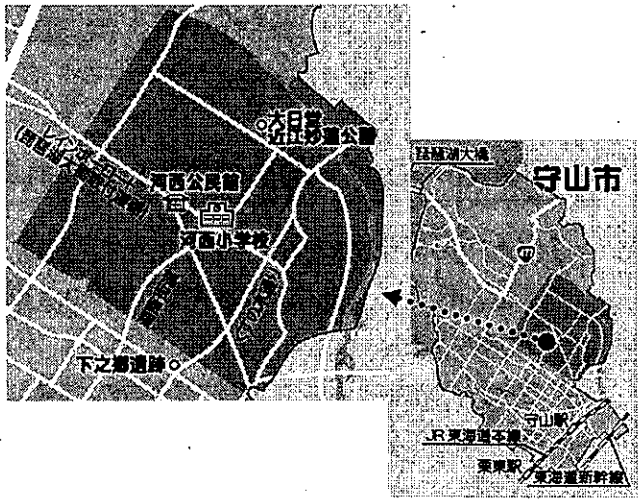
河 西 学 区
まるごと活性化プラン

河西学区はこんなまちです

■位置

○河西学区は、守山市東部の中ほどに位置する野洲川に沿った地域です。マンション2自治会を含む16の自治会で構成されています。

○学区の南部、約3分の1が市街化区域で、琵琶湖大橋取り付け道路を挟んで大型店舗を抱える市街地や住宅地があります。北部は市街化調整区域であり、田園地帯が広がって古い集落が点在しています。



■成り立ち

○野洲川が伏流する湧水地帯で水利が豊かである河西学区には古くから人が住んでいました。ハノ坪、阿比留、播磨田東などの、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が学区内で発見されています。

○河西の人々は、野洲川の恵みを受け生活するとともに、その脅威と闘ってきた長い歴史があります。今も、御神体の流出を田螺が守った話や各地に残る水止め石やカワトなど、野洲川と湧水に関わる伝承や遺構が残ります。

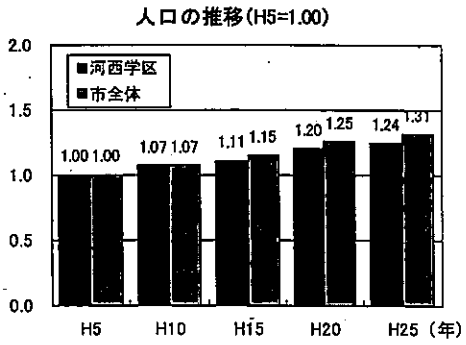
○琵琶湖と内陸を結ぶ交通路としても重要な地域であり、近江源氏佐々木氏の本拠と赤野井を結ぶ、佐々木道や錦織寺の参詣道である錦織寺道などの幹線道路が今も残ります。

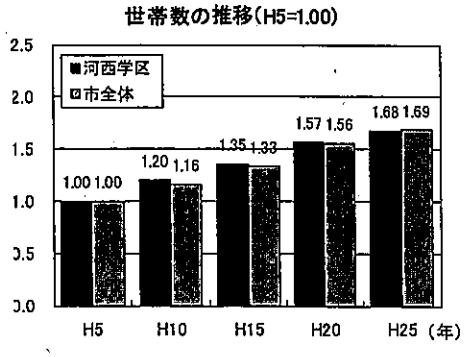
○戦後となって、琵琶湖大橋・取付道路開通（昭和39年）、市街化区域設定（昭和45年）、野洲川放水路の通水開始（昭和54年）などにより南部を中心に市街地化が進み、現在の姿となりました。

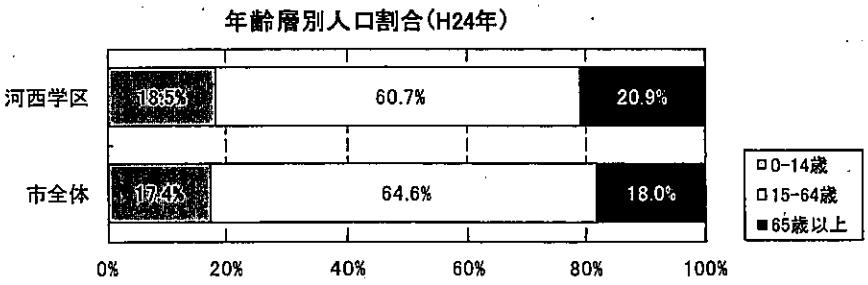
■人の動き

○人口は13,562人（平成25年）で、市全体の17%を占めます。市全体と同様に増加傾向で、河西学区ではこの20年間で約24%増加しました。

○年齢別にみると、0～14歳が約19%、65歳以上は約21%であり、市全体とほぼ同じ年齢構成となっています。







地域のたからもの

河西学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■野洲川がもたらす自然の恩恵にあふれる地域です

○野洲川の伏流水や湧水、そしてそれらがもたらす自然環境が大切な「たからもの」となっており、川戸やホタル、鯉・鮒等がおよぐ里川があります。

○桜並木やホタル等、四季を彩る自然が豊富で、また野洲川から望む周囲の山々の素晴らしい眺望等、多様な自然の恵みに囲まれています。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■人のつながりの強い元気なまちです

○毎週、集まりを行っている自治会や、サークルが28ある自治会などがあり、地域住民の交流は活発に行われています。また、自治会によっては、新旧の住民が混在している地域がありますが、運動会等の活動を通じて、交流を図っています。

○高齢化の進んでいる地域がある一方で、宅地開発により若い世代の流入もみられ、地域の活力向上が期待されます。

■歴史のある伝統・文化が今に伝わるまちです

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○伝統的な地域資源（由緒ある寺社仏閣、今に伝わる伝統文化・祭り・行事など）が数多く残っており、住民による伝統的行事の継承といった取組が行われています。

○播磨田遺跡・阿比留遺跡等、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡や、杉本家屋敷といった歴史遺産・建造物が数多くあり、さらなる活用が期待されています。

■河西学区ならではのユニークな「たからもの」があります

○河西学区は、市の花にも指定されている「妙蓮」や、伏流水・湧水を活かした「川戸」といったユニークな「たからもの」を持っています。

○また、「笠原生姜」や「わさび」の栽培など、農産品にも特徴的なものがあります。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、河西学区には、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■地域活動や行事の担い手・人材が不足しています

○若年層の地域離れや高齢化により地域活動の参加者・担い手が不足し、青年団がなくなった地区もあります。

○また、地域団体の横のつながりがない（自治会とPTA等との連携がない）といった状況がみられ、効果的な活動の妨げとなっています。

○高齢化や新住民、若年層の自治会への関心低下により自治会運営に支障が生じています。

■新旧住民・世代間の交流が希薄化しています

○宅地開発が進み新しい世帯が増えてきていますが、新旧住民のつながりの希薄化がみられます。また世代間のつながりもなくなってきています。

○自治会内でも若年層を対象とした行事が少なく、祭りや行事があっても、参加者が減少している状況にあります。積極的なアピールや、誰もが参加したいと思うような内容のイベントの実施が求められています。

■妙蓮や遺跡、水資源・ホタル・桜等の「たからもの」の活用・保全が不十分です

○湧水・庄屋屋敷・旧野洲川跡など、しっかりと語り継がれていない「たからもの」があります。

○近江妙蓮や遺跡等のPRや説明看板等の整備等が求められていますが、学区だけでは数ある資源を活かしきれていない状況にあります。

○川戸や地区内の川、桜、ホタル等の保全・復活に取り組む必要あります。

■公園・道路整備や開発バランスや水害対策等、生活環境の整備が必要です

○子どもを自由に遊ばせる公園が少なく、人が集える大規模な公園がありません。

○学区内に市街化区域と調整区域があり、開発のバランスがとれていない状況がみられます。また、道路が狭いところがあり、交通渋滞の発生や、交通安全の確保が難しくなっています。

○住宅開発等で田畑がなくなってきたことで、治水問題（床下浸水・田畑冠水）が多発していなす。

■マナーの悪さや生活ルールが守られない状況がみられます

○小学生や中学生の道徳マナーの悪さが見られ、適切な指導が求められる状況にあります。

○ごみ出しのルール違反や生活騒音といった問題が一部で見られます。

■職場が少ない・商店がない･後継者不足等、地域の活力が低下しています

○学区内に職場が少なく、若者の職が見つからない状況にあります。また、農業の後継者も不足しています。

河西学区活性化の基本方向

河西学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき河西学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

「人をつなぐ」「四季をつなぐ」「たからものをつなぐ」
未来につながるまちづくり

河西学区では、これまで人のつながり、自然の恩恵、歴史のある伝統・文化などの「たからもの」を大切にしながら、地域の個性を育みまちづくりを進めてきました。しかし、少子高齢化の進行や市街地開発など、時代の流れや環境の変化により、まちづくりにも課題が散見されるようになっています。

河西学区の活性化に向け、もう一度地域にあるたからものを見直して、それぞれが持つ魅力や役割をつないでいきます。地域内外の人と人との関わりや取組をつなぎ、四季の自然の恵みをつなぎ、さまざまな歴史・文化資源を地域の個性としてつなぎ発信していくことにより、河西の活力・魅力を向上させ、未来につながるまちづくりに取り組んでいきます。

＜取組の方針＞

【方針１】自然の保全を念頭においた地域活性化の取組
【方針２】近江妙蓮や遺跡を活用した個性輝くまちづくり
【方針３】地域間・世代間の交流を活性化させる地域活動の推進
【方針４】だれもが安心・快適にくらせるまちづくり

＜まちづくりのプロジェクト＞

- 野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト
- 近江妙蓮活用プロジェクト
- 河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト
- 河西のみんなで「つながる」プロジェクト
- 健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　野洲川・法竜川・里川の「水辺空間」満喫プロジェクト

河西学区には野洲川をはじめ、法竜川や里川など、水辺空間が豊富なことから、地域住民同士のつながりを深めるため、この地域資源を積極的に活用した地域の交流・憩いの場（機会）づくりを進めます。

取組１　野洲川の自然との触れ合い・体験

- 親水空間の整備（川面へのアプローチや飛び石等の整備）
- 笠原の桜・河川公園・魚ポイントを連携させた活用・情報発信
- 魚を「獲って、食べる」イベントの開催（子ども向け）
- 「いかだ流し」の復興など新たな地域イベントの創出

取組２　野洲川「花いっぱい」運動

- 遊歩道とコスモス園等の整備
- 自治会の連携による「花いっぱい」運動の推進

取組３　法竜川での「魚あそび」

- 浅くてきれいな川での魚つかみ大会の開催（子ども向け）

取組４　里川の「遊空間」としての活用

- 「水遊び安全教室」の開催

B　近江妙蓮活用プロジェクト

600年以上も受け継がれる近江妙蓮や豊かな自然を、大切な地域資源として保全すると共に地域内外との交流に活用するほか、観光物産品の開発、妙蓮公園の機能拡充による地域の魅力向上に取組みます。また、一年を通じて豊かな自然と触れ合い、実感し、このまちの魅力を守る意識を醸成するため、季節の花の活用や植樹、ホタルの保護等の取組を推進します。

取組１　近江妙蓮を中心とした地域間交流

- 蓮で有名なまちと姉妹提携を結び、蓮めぐり交流ツアー等を企画
- 国の天然記念物への申請を行い、全国的に情報発信
- 関連資料（古文書等）の管理体制の充実（貸出等への対応）
- 駐車場整備等、観光客の受け入れ態勢の整備

取組２　地元住民の参画による妙連公園の魅力向上

- 妙連公園に全国から蓮の花を集めるなど、機能・魅力の向上
- 地域住民の参画による妙蓮の管理
- 地元向けの学習会の開催や情報発信

取組３　季節の花や果樹を活用し「四季をつなぐ」取組

- 近江妙蓮・笠原桜並木・野洲川中段の花公園・グランドゴルフ場等と連携したお花見スポットの整備
- 桜・水仙・彼岸花等、季節の草花の活用（球根植物の活用）
- 栗・柿等の果樹の植栽
- 河川敷にウォーキングロードを整備

C　河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト

河西学区のみどころやイベントの中には、学区内でもあまり知られていないものもあり、より多くの人々（特に若い世代の人）に河西の魅力を身近に感じ、楽しんでもらうため、地域の魅力を整理したマップやイベント情報の発信の工夫を行い、積極的な情報発信を行います。

取組１　河西のみどころマップの作成

- 学区内の歴史・文化遺産のみならず、豊かな自然を紹介するマップづくり

取組２　情報発信の拡充

- 「たからもの」の案内板の整備（音声案内を含む）
- ホームページや瓦版（学区新聞）による広報の拡充（イベント・行事等の情報発信）
- ウォーキング・サイクリングコースの設定
- 川戸をはじめとした水の歴史の情報発信（阿比留の『川戸』」活用プロジェクト」との整合・調整 ）
- まちを紹介する「河西物語」の作成

取組３　「はなだより」情報の発信

- 桜・近江妙蓮・紫陽花・コスモス等の開花状況等の情報発信

D　河西のみんなで「つながる」プロジェクト

人のつながりの希薄化を解消するためにも、河西学区で行われているイベントや行事の実施方法や内容の工夫をしたり、規模を拡充することで、自治会の住民同士や新旧住民・世代間の交流を促進します。また、それぞれの自治会で行われているイベントにおいても工夫、改善することで交流のさらなる活性化に取組みます。

取組１　自治会同士や新旧住民で交流し「つながる」

- 自治会の連携による「学区民の集い」や運動会の拡充と参加型イベントの開催
- 誰もが参加しやすい仕組みづくり（トーナメント形式のスポーツ大会等）
- イベント等の魅力の向上・情報発信（集客力の向上）

取組２　若い世代が交流し「つながる」

- 行事と音楽イベントなどを組み合わせた若者・新住民向け行事の開催（若者の企画したイベントの開催）
- 親子で楽しむイベント・行事の開催（若い子育て世代対象）
- 子育て世代の参加環境の整備（イベント時の保育ルームの開設など）
- ゴルフ・ソフトボール・ボウリング等、多様なスポーツイベントの開催
- 「子どもかるた大会」「子ども将棋大会」の開催

取組３　世代間で交流し「つながる」

- 大人から子どもまで、あらゆる世代が楽しめる河西学区大運動会の開催
- 公園を活用した健康促進の取組（子どもとお年寄りまたは、子どもから高齢者まであらゆる世代の交流）
- 夏休みに自治会館を開放し、子どもと高齢者対象のイベントを開催
- 自然を活用した遊び（魚釣りなど）を通じた世代間交流

取組４　それぞれの自治会におけるユニークな行事・イベントを通じて「つながる」

- 八田神社での年末のしめ縄作りへの学区民の参加促進（老人クラブ以外の参画の促進）
- 阿比留の灯明踊りや初詣で灯されるペットボトル灯篭を学区全体に展開（子どもが作ったペットボトル灯篭）
- お祭り（おみこし）による交流の促進（子ども会の参加）

E　健やか・安心・快適な生活環境創出プロジェクト

誰もが健やかで安心して快適に暮らせる生活環境を創出するため、高齢者を支える仕組みづくり、公園や河川・道路整備、生活マナーの向上、ホタル河川の整備やホタルの保護などの推進など、幅広く生活環境の改善に取組みます。

取組１　高齢者の買い物支援

- 企業・事業者の力を活かした高齢者への生活支援（企業保有のバスの活用、買い物支援など）

取組２　公園・道路・河川の整備検討への参画

- 野洲川河川敷等にスポーツ公園を整備（サッカーや野球が出来る公園）
- ボール遊びのできる公園整備（フェンスで公園を囲む等）
- ホタル公園・コスモス公園・桜公園など、ひとつの特色に秀でた公園・緑地の整備
- 野洲川新堤防の道路整備
- ホタルの住める里川の環境整備

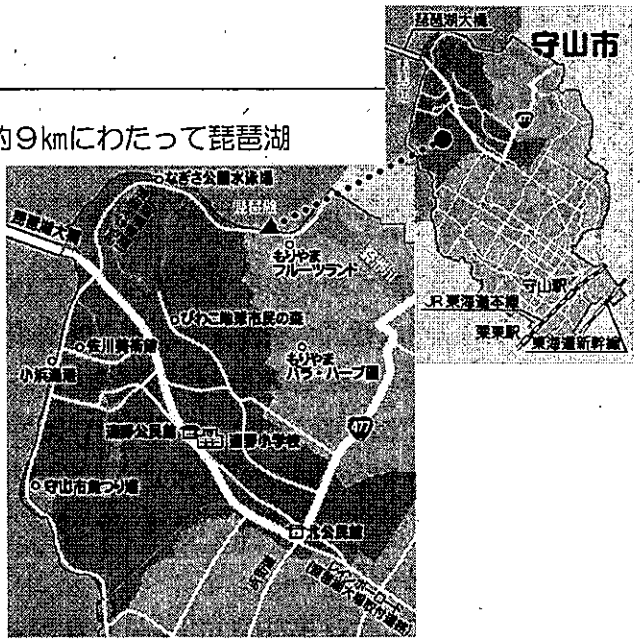
速 野 学 区
まるごと活性化プラン

速野学区はこんなまちです

■位置

○速野学区は、守山市の西部に位置し、学区の西側は約９kmにわたって琵琶湖に接しています。開発、大曲、木浜、今浜、美崎、水保、中野、中野小林、北川ニュータウン、ネオ・ベラヴィータ守山の 10 の自治会からなります。

○湖岸道路の沿線は市街化区域であり、宅地開発が進むとともに、美術館、公園、ホテル、ゴルフ場などが立ち並ぶリゾート・レクレーション地域となっています。内陸部は市街化調整区域であり、田園地帯の中に古くからの集落が点在しています。



■成り立ち

○古くから、旧野洲川などの豊富な水資源に支えられた農業地域であり、また琵琶湖岸では伝統的漁法である魞（えり）漁をはじめとした漁業が盛んでした。

○昭和 39 年に琵琶湖大橋が開通し、市の中心部から遠く離れたのどかな田園地帯であった速野学区は、守山市の北の玄関口という新たな顔を持つようになり、人口の増加、宅地開発の進展、大規模小売店やリゾート・レクレーション施設等の立地など、急速な発展を遂げました。

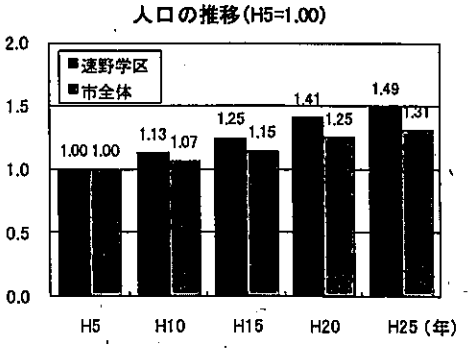
■人の動き

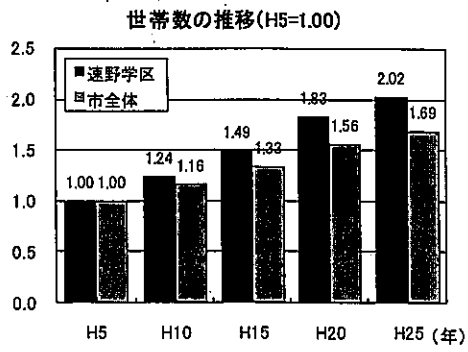
○人口は 12,623 人（平成 25 年）で、市全体の 15.9%を占めます。20 年前に比べて約 1.5 倍に増えており、市全体を上回る高い増加率を示しています。

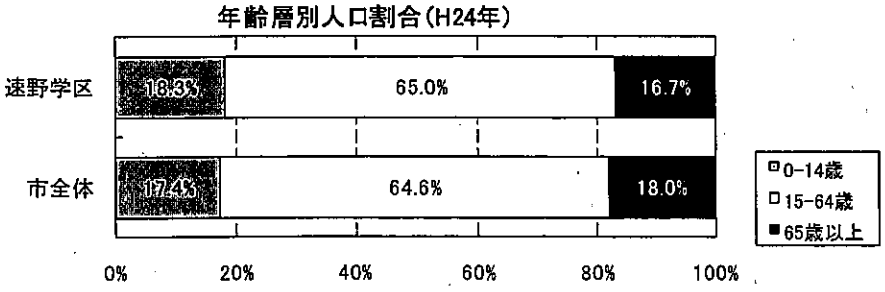
○年齢別にみると、0～14 歳が約 18%、65 歳以上は約 17%であり、市全体の構成比とほぼ同じような状況です。

○1 世帯あたりの人口は 2.8 人で、20 年前の 3.8 人から 1.0 人減少し、核家族化や夫婦ふたりぐらし世帯、単身世帯が増えていることを物語っています。

○ただし、人口が増加しているのは主に市街化区域であり、市街化調整区域では人口の減少、少子高齢化が進んでいます。







地域のたからもの

速野学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■人とひとのつながりが強い地域です

○内陸部の古くからの集落では、おすそ分けの習慣が残るなど、お互いの顔がみえるような近所づきあいが根付いています。
○転入者が多く歴史の浅い新興住宅地でも、夏祭りや一斉清掃など自治会あげての行事により、住民間のつながりを生み出しています。
○新旧住民の間の交流も、年に１回の「学区民の集い」をはじめとした祭事やイベントの開催、日常的な子育て支援活動などを媒介として強まりつつあります。

学区民の集い等の写真

○○○○○○○○○○

■歴史を感じさせる史跡や伝統行事が残っています

旧木浜港などの写真

○○○○○○○○○○

○己爾乃神社、樹下神社、福林寺、観音寺などの由緒ある神社仏閣、左義長、菜まき盆、たらい神輿など古くから継承されている祭事など、歴史にまつわる様々な資源や伝統行事が残されています。
○旧野洲川の伏流水など、昔から住民と水とのつながりが強い地域であることから、井戸、出湯、竹管簡易水道、旧木浜港など、水にまつわる生活遺産を今でもみることができます。

■豊かな自然を活かした住みやすい環境が形成されています

○旧野洲川河川敷や琵琶湖岸には様々な動植物が生息し、琵琶湖、木浜内湖、法竜川、大川、新川などの水辺にも自然が残されています。
○素のままの自然環境や、これらの環境を活かして整備された地球市民の森などの公園などが、潤いとやすらぎの空間を形成しています。
○湖岸に近い新興住宅地では、花に彩られ美しく整った町並みが形成されています。

地球市民の森またはハマヒルガオ群落の写真

○○○○○○○○○○

■速野ならではの産業、文化、施設があります

○豊富な河川水を活用した農業や鮒漁をはじめとする漁業など、多彩な第一次産業が地域を支え、川魚料理などの伝統的食文化や地域ブランドであるモリヤマメロンなどを生み出してきました。
○琵琶湖大橋、取付道路、湖岸道路が結節する県内でも重要な交通の要衝であり、湖岸に近い地域では、美術館や公園やゴルフ場など地域住民も来訪者も楽しめる施設が多く立地し、リゾート・レクレーションエリアとなっています。

鮒または琵琶湖大橋の写真

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、速野学区には、新旧住民の混在という大きな流れを下敷きにした、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。

■人口の増える新自治会と減少傾向の旧自治会の地域差が拡がっています

○新自治会では、人口が増えているものの昼間は高齢者が多く、防犯上の不安があります。
○旧自治会では少子高齢化が進み、農業の後継者確保や地域行事の継承が必要です。
○新旧自治会に共通して、世代間交流の促進、共同体意識の向上が求められています。

■学区運営、自治会運営における世代交代が停滞しています

○学区や自治会の役員にかかる負担が大きくなっています。
○役員の世代交代が停滞しており、新たなリーダーの育成、若い人や女性の参画の促進が必要です。

■末永く安心・安全に暮らすための生活基盤が十分でありません

○学区レベルでの防災訓練の実施や避難所の確保など、地域防災への取組が必要です。
○公共交通の利便性が低く、車を運転できない高齢者の通院などが問題となってきています。
○狭隘な生活道路を抜け道として利用する車が多く、交通事故の危険性が高くなっています。

■都市施設・公共施設が十分でありません

○速野会館が狭く、学区内の文化・教育系施設も貧弱です。
○琵琶湖大橋や湖周道路を利用する通過交通が足を止めてくれるような集客施設が必要です。
○広すぎる町域、住居表示など、古くからの形態による不便さが多く残っています。

■恵まれた自然・景観・水環境があるのに活かせていません

○旧野洲川の地球市民の森は雑草が生い茂り、不法投棄も増加するなど、管理が行き届いていません。
○琵琶湖、木浜内湖、法竜川、大川などの豊富な水環境に触れあえる親水施設が不十分です。
○湖岸のハマヒルガオ群落やなぎさ公園の砂浜などの継続的な保全が必要です。

■地域への愛着や誇りが醸成されにくいのが現状です

○それぞれの自治会レベルで祭事やイベントはありますが、学区全体を挙げてのものが少ないです。
○守山市民として、速野学区民としての郷土愛を抱かせるものが必要です。

速野学区活性化の基本方向

速野学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき速野学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

受け継いできた自然と未来を見つめる人が主役のまち
～守山の北玄関　エコミュージアム・はやの～

速野学区には、広大な学区域に自然、水、歴史などに彩られた多様なたからものが点在し、地域住民の生活に溶け込みながら守られてきました。またこのような環境に育まれた第一次産業(農業、漁業)を通して、人と人、人と地域のつながりが醸成されてきました。琵琶湖大橋の開通以降は、守山市の北の玄関として急速に発展するとともに、新旧の住民が一体となって他の学区に先駆けた様々な取組を行い、その気風は今なお地域住民の中に息づいています。

私たち速野学区民は、守山の北玄関にふさわしいもてなしの心を胸に、先人たちの進取の気風を受け継ぎ、地域の恵まれた環境を“エコミュージアム※”として後世まで大切に残しながら、末永く活き活きと暮らせる速野のまちづくりをめざしていきます。

※地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、住民の参加により永続的な方法で保全し活用していくこと。

＜取組の方針＞

【方針１】多世代が連携し速野ならではの多様性を活かしたまちづくり
【方針２】子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせるまちづくり
【方針３】水辺の自然環境を活かした癒しと潤いのあるまちづくり
【方針４】地域の伝統・産業を大切にするまちづくり

＜まちづくりのプロジェクト＞

- 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト
- 速野まるごとエコミュージアムプロジェクト
- びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト
- 大川周辺の自然環境保全＆環境学習推進プロジェクト
- いにしえの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト
- みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

地域住民の地域への愛着や誇りの醸成、郷土愛を抱かせるためにも、琵琶湖大橋、湖周道路、取付道路が交差する湖南と、湖西・湖東地域の重要な交通結節点という地の利を活かし、守山市の北の玄関口として、また県内の様々な情報や物品そして人が集まる拠点として、行き交う車や人々が足を止めてくれるような魅力を創生します。

取組１　幹線道路沿いに情報発信拠点を整備（道の駅など）

- 「守山の北の玄関」をアピールするシンボルを設置（「ようこそ守山へ」のアーチ看板など）
- 遊休地や既存の空き物件を活用して交流や地域農産物等の販売拠点を設置し、地域の農産品や水産物の販売や食事を提供
- 「おうみんち」のような、地元の農産品の生産者が集える場の設置
- 「近江の中心」として、守山市、速野学区だけでなく、近江全体の特産品や地域情報を集めて販売、発信する

取組２　速野の住民が守山市を代表する情報発信の担い手に

- 情報発信拠点において、速野の住民が守山市の情報発信の担い手として、地域の歴史や産業や観光資源（自然、景観、歴史資源など）を情報発信する。

B　速野まるごとエコミュージアムプロジェクト

恵まれた自然、景観、水環境という地域の魅力により一層の磨きをかけるため、広大な学区域の中に点在する旧野洲川（地球市民の森）、琵琶湖、木浜内湖、大川、法竜川、旧集落や農地の間の用水路、公園などの個性的な水環境、自然資源、および伝統的な生活様式に関わるたからものをネットワーク化して、速野学区全体でエコミュージアムを形成し、水と自然と人が共生するまちをめざします。

取組１　速野エコミュージアムマップ・パンフレットの作成

- 速野に点在する様々な河川、湖、水辺空間、自然資源の中から、紹介するポイントを地域住民によって選定
- 季節毎の見どころなどを考慮し特徴を示したエコミュージアムマップおよびパンフレットを作成

取組２　速野エコミュージアム回遊ルートの形成

- 広大な速野学区に拡がる水辺空間を回遊できる遊歩道、サイクリングロード等の整備
- 「四季の速野巡り」と題したルートの設定
- 統一感のある案内標識や説明看板の整備

取組３　環境学習を指導、実践する地域の組織、人材づくり

- それぞれの河川、湖、公園などに環境学習を指導するインストラクターやガイドを配置
- インストラクターやガイドの人材は各自治会から発掘、育成

- 地域の子どもたちによる「エコレンジャー」を結成し、地域の高齢者といっしょに清掃や草刈りなどの保全活動に取り組む

C　びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

恵まれた自然や景観など、地域の魅力をより多くの住民が実感できるようにするため、学区域を南北に貫く旧野洲川跡地において滋賀県が整備を進めているびわこ地球市民の森を、学区の住民が日常の楽しみややすらぎを享受し、住民間相互の交流を図る場として活用するとともに、学区外からの集客を目的としたイベント開催する場としても活用し、にぎわいや活力を生み出します。

取組１　学区住民の日常的な楽しみと安らぎの場づくり

- 美崎公園、なぎさ公園まで連続する遊歩道、ジョギングコース、サイクリングロードの整備
- 堤防沿いに桜並木を整備
- 流水の確保、水質の向上、親水景観の整備、清掃の徹底によるやすらぎ環境の整備

取組２　学区住民の相互交流の場づくり

- 球技を楽しめるグラウンドの整備（ソフトボール、サッカーなど）
- 学区民の集い、学区民スポーツ大会など、学区内交流、世代間交流を目的とした定例行事を地球市民の森で開催
- 雑草の手入れや管理等の環境保全に学区住民が参画するしくみをつくり、協働の機会を創出

取組３　他地域からの来訪者を呼び込むイベント開催

- 年間を通しての集客イベントの開催（ソーラン、マラソン大会、ウォークラリー大会、音楽祭など）
- グランドゴルフコースを、国際的な大会を開催できるような名門コースとして整備することについて検討

D　大川周辺の自然環境保全＆環境学習推進プロジェクト

地域への愛情や誇りを醸成するためにも、旧野洲川の下流部に位置し、多くの人や車が行き来する湖周道路に近い大川と周辺の自然環境を活かし、琵琶湖（おもに琵琶湖大橋以北）や美崎公園、なぎさ公園などと連携した、学区住民や来訪者にやすらぎとうるおいを与える空間を創出するとともに、環境学習の場として有効に活用します。

取組１　大川の水質改善と周辺の自然環境改善

- 水草の除去やヘドロの清掃等により水質を改善し、人が触れることができ、多様な生物が生息できるきれいな水の復活
- 川岸に繁茂する雑草の除去や不法投棄物等の撤去により、悪臭などのない快適な沿岸環境の整備

取組２　大川と周辺の自然を利用した環境学習プログラムの作成

- 大川とその周辺に生息する淡水生物、野鳥、昆虫、植物を活用した環境学習の場の整備、環境マップの作成、回遊歩道や木道の整備など
- 美崎公園のキャンプ場利用と環境学習をセットにしたプログラムづくり

取組３　大川と周辺の花のネットワーク形成

- ハマヒルガオ、ひまわり、菜の花、コスモス、その他の希少な草花など、大川から琵琶

湖にかけて咲く草花を紹介するマップの作成

- 花畑の手入れや周辺の清掃、草刈りなど、地域の住民による保全活動

E　いにしえの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト

世代間交流の促進や地域への愛着を深めるために、神社仏閣、史跡、言い伝えなど、地域の歴史を語る数多くのたからものを、住民の手によって再発見・再整理し、魅力や歴史的価値を学区内外の人によりよく知ってもらうとともに、住民が誇りをもって、歴史・伝統・文化を次代に継承するしくみをつくります。

取組１　歴史的たからものの再発見＆情報発信

- 地域に点在する神社仏閣、史跡が持つ個々の歴史などに関する情報を住民が手分けして収集・整理
- その結果をまとめた歴史回遊マップ・パンフレットの作成、統一感のある案内標識や説明看板の設置
- これらを活用した速野の歴史探訪プログラムを作成定住促進に向けた法制度の検討

取組２　歴史の語り部の発掘と活躍の場の創出

- お年寄りや地元の研究者が速野の歴史の語り部（歴史ガイド）となり、地域の行事や学校教育など活躍できる機会を設定
- 地区外からの来訪者に対する語り部として活躍できる人材をつくる

取組３　地域の歴史を住民が学び伝える環境づくり

- 地域の若年世代が親子で楽しみながら地元の歴史を学べるスタンプラリーやウォークラリー等の開催

F　みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

少子高齢化が進む旧集落と人が増え続ける新集落の住民意識の差、世代間交流の希薄化、自然環境の保全、安心・安全の確保など、学区の様々な課題を改善するため、老若男女より多くの住民が課題を共有し、５年後、１０年後、さらに長期的将来の速野のまちづくりビジョンをみんなで考える基盤をつくります。

取組１　まちづくり組織の見直しと次代のリーダー育成

- 生涯学習等に偏りつつある既存のまちづくり組織の状況を、あらゆる年齢層の人が参加し将来ビジョンを議論できる組織に再編
- 次代を担う若手の学区民の中から、将来のまちづくりを進める上でのリーダーとなる人材を発掘し育てるためのしくみづくり

取組２　先駆の気風を継承しつつみんなで考える将来ビジョン

- 速野の伝統である他学区に先駆けた様々な先進的取組、進取の気風を継承するため、学区や自治会組織の古い部分を見直し、風通しのよい若者や女性が参加しやすい組織に少しずつ改編

取組３　安全・安心な環境づくりをテーマとしたまちづくり活動

- 自治会・婦人会・老人会等の地域組織と行政、警察、消防等との関係団体との連携・協力体制の充実を図る
- 子どもから高齢者まであらゆる世代が集まって交通安全上の危険箇所を抽出し、「ヒヤリハットマップ」をつくる

中洲学区
まるごと活性化プラン

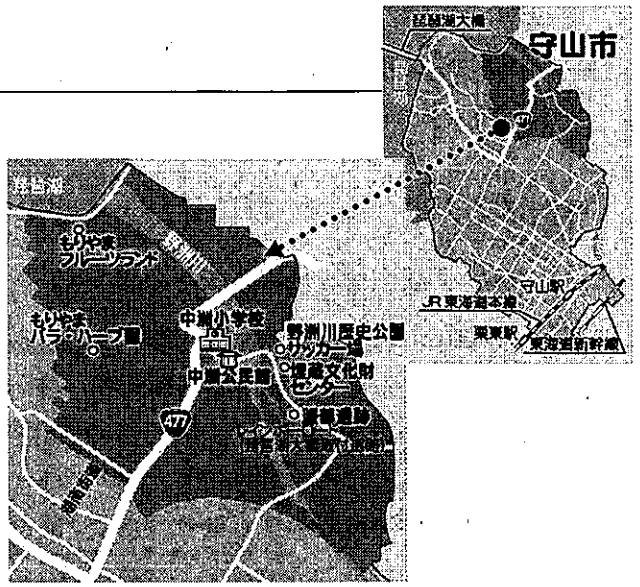
中洲学区はこんなまちです

■位置

○中洲学区は、市の北部に位置し、のどかな田園風景を代表する自然の豊かな地域で、新庄、服部、立田、幸津川、小浜の５自治会からなる地区です。

○野洲川が琵琶湖に注ぎ込む最も下流のデルタ地域にあり、学区の名前からも分かるように、野洲川改修前は北流と南流の狭間に位置していました。現在は学区の中央を野洲川新放水路が流れています。

○学区全体が市街化調整区域に指定されています。



■成り立ち

○中洲学区は、農耕に適した土地で古くから人が住んできました。そして10年に一度の水害を繰り返した暴れ川であった野洲川とともに歴史を刻んできた地域です。「服部遺跡」（縄文時代～鎌倉時代）は、弥生時代より洪水のたびに水田や集落、墓地とさまざまな利用が行われており、各時代の人々と野洲川の関わり方を物語っています。また、幸津川の水込みや樋門といった野洲川に関わる遺構、伝承が多く残っています。

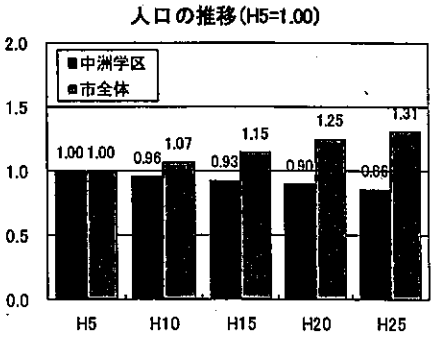
○昭和54年の野洲川新放水路の完成により、ようやく洪水の不安から解放されましたが、改修にあたって集落の移転や農地の提供などが必要で、地域の負担も大きいものでした。

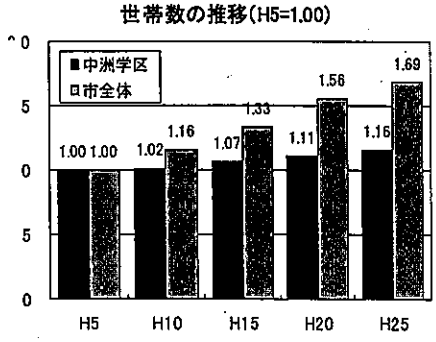
■人の動き

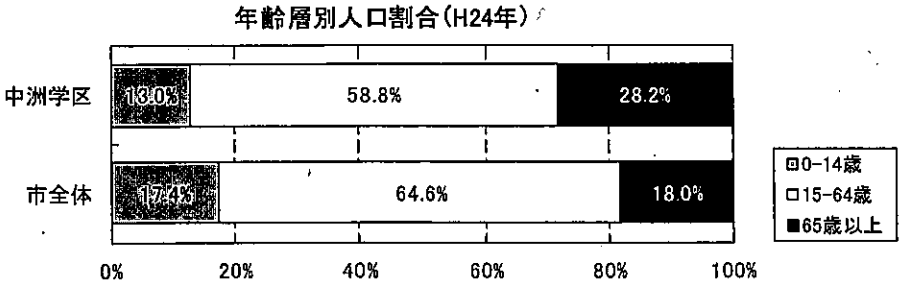
○人口は2,677人（平成25年）で、市全体の3.4%を占めます。全市人口が増えているのに対して、中洲学区はこの20年間で約14%減と、年々減少しています。

○年齢別にみると、0～14歳が約13%、65歳以上は約28%であり、市全体と比べると少子・高齢化が進んでいます。

○1世帯あたりの人口は3.3人で、20年間で4.4人から1.1人減少し、核家族化やひとりぐらしの家庭が増えていることを物語っています。







地域のたからもの

中洲学区には、「たからもの」といえる良いところ、誇れるものが多くあります。これらをまちづくりに活かしていきたいものです。

■地域の人のつながりが強く、人柄が良いまちです

○自治会によらず中洲学区では共通して、地域へのつながりが強い、人柄と人間性が良いという『たからもの』を持っています。組単位、神社、お寺などの昔から受け継がれてきた助け合い組織・仕組みが残っており、自治会や隣近所、さらにはまち全体で助け合う心が特徴です。

○地域への帰属意識が強く、まちづくり活動やボランティア活動にも協力的な住民が多い地域です。イベント、清掃作業、コスモス園や野洲川の桜を地域住民が管理するなどの活動に加え、高齢者のためのすこやかサロン活動を通じた高齢者のたまり場づくりも熱心です。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

■地域に伝わる歴史・伝統・文化が色濃く残っています

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

○お祭りや行事が頻繁に行われ、伝統・文化に誇りを持っているまちです。特に祭が地域の人をつなぐ大切な仕組みとなっており、子どもと大人の交流の場としての役割も担っています。これらを通じて伝統の継承が続けられています。

○田舟、船着き場、水路、湧水で炊事など、各地域で野洲川の伏流水や湧水といった『水』にまつわる慣習や文化が多く、生活の中に溶け込んでいました。

■お年寄りがとても元気で、静かでのどかな住み良いまちです

○守山市の中でも少子高齢化が大きな問題になっていますが、一方で80代でも現役で農作業をされているなど、お年寄りが元気なまちです。

○平和で治安が良く、静かでのどか。とても住み良いまちでもあります。

■田園風景・眺望が素晴らしく、豊かな自然が残されています

○多くの田畑や果樹園が存在し、田植え期、稲刈り期の田園風景や対岸の比良山、比叡山の眺望が素晴らしく、特に雪を纏った冬の眺望は一見の価値があります。

○今でもカブトムシやクワガタが捕れる自然が残されている地域です。

たからものの写真等

○○○○○○○○○○

現在のまちの課題

一方で、中洲学区には、様々なまちづくりの問題・課題があり、これらを解決していくことが必要です。特に野洲川の水と高齢化・人口減少に関連する課題への対応が求められています。

■水に親しめなくなっています

○野洲川の河川敷へ気軽に降りていけない、荒れ放題の状態で行くと危ないと言われるようになってしまいました。また、川の魚も少なくなっています。

○野洲川改修により伏流水が途絶え、集落内の川に水がないため、湧水で野菜を洗う、夏場には西瓜を冷やしたり打ち水をするといった水に関わる生活文化が失われつつあります。

■地域の伝統・行事・活動の担い手が少なくなっています

○青年団の人数が少なくなっており、原因は人が減っていることに加え、入る割合も減少しているためです。地域のお祭りなど行事を支えるスタッフは 40 歳以上が多く、20～30 代の参加が少ない状況です。担い手が不足し、伝統行事の継承困難、形骸化や消滅が危惧されています。

■地域の産業が衰退しています

○農業の後継者不足、農地の放棄による空き地の増加や大型店進出のため自営の小売業の縮小、後継者の確保が困難な状況です。そもそも、若者の働く場が少ないことも大きな課題です。

■まちに活気が不足しています

○学区全体が市街化調整区域であるため家を建てにくく、若者流出の食い止めや新たな住民の転入が難しくなっています。また商店街もないことから町に活気が不足しています。各自治会が離れているため学区の連続性が低いという問題もあります。

■若者が集まる場所やイベントが不足しています

○少子高齢化への対応や活気を取り戻すためには若年層がこの地域に住まうことが必要ですが、若者が集まれる場所やイベントが不足しています。

■公共交通が不便な地域です

○公共交通が不便な地域で、車に頼らざるを得ず送迎が必須の地域となっています。特に１人ぐらしの高齢者にとっては非常に不便を感じることになります。

中洲学区活性化の基本方向

中洲学区のたからものを活かしながら現在のまちの課題を解決していくため、５年～10年先の目指すべき中洲学区の「まちづくりのテーマ」とまちの活性化に向けた「取組の方針」、そして具体的な「まちづくりプロジェクト」を次の通りとします。

＜まちづくりのテーマ＞

野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち

中洲学区は野洲川に寄り添いながら暮らしてきた地域です。野洲川では頻繁に大水害が発生したことから新放水路の整備が行われ災害に対する安全性が向上しましたが、その半面、野洲川や伏流水の恵みを受け豊かに育ってきた生活や文化は失われてきました。

中洲学区にとって野洲川は外せないたからものであり、その恵みを再評価しまちづくりの中心に据えていく必要があります。野洲川に親しみやすい環境を整備し様々な世代の人が集まる場として活かすとともに、野洲川の伏流水を再び里中に流し水と共に生きる暮らしを取り戻す取組を進めていきます。また、活気ある地域であり続けるために、中洲の主要産業である農業の活性化や、いくつになっても出かけやすい環境づくりについても取組を進めていきます。

＜取組の方針＞

【方針１】野洲川で各世代が遊び、楽しめる仕組みづくり
【方針２】里中にホタルが飛び豊かな水が流れるまちづくり
【方針３】地域の食文化を活かし農業が元気なまちづくり
【方針４】いつでも誰でもおでかけしやすいまちづくり

＜まちづくりのプロジェクト＞

- 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト
- みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト
- 農業を元気にするプロジェクト
- 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

まちづくりのプロジェクト

取組方針と具体的なプロジェクトの内容は次の通りです。

A　野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト

荒れ放題で危険な状態となり川辺に降りられない野洲川の河川敷を、中洲学区に住まう様々な世代や学区外から訪れた人が集まり、気軽に水に親しみ、楽しめる場所にするための取組を進めます。また、野洲川の伏流水を里中に流し、昔から育まれてきた水に関わる生活文化や良き風情を次世代に引き継げるような環境を整備します。

取組１　河川敷の公園化推進

- 親水公園の整備計画は行政と連携して進めている
- 整備後の利用方法については、行政と連携して計画を策定し実施する

取組２　みんなで担う公園管理の仕組みづくり

- 整備策定の推進と並行して、管理体制についても今後検討

取組３　伏流水の取水方法検討

- 里中に魚が住める水を再び流す方法について、調査を実施（調査は行政により実施）
- 専門家の協力を得ながら行政が計画し、地元の意見と調整

取組４　里中河川沿いの景観づくり

- 里中河川沿いの景観づくりについて検討する

取組５　伏流水を活用した事業の実施

- 伏流水が流された後の景観づくり等の取組を検討、推進

B　みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト

世代間交流の場として、また野洲川に身近に触れる機会を作るため、野洲川河川敷などを活用したイベントを開催します。中洲学区住民同士の交流、または他地域の住民が交流する機会を創出することで、中洲学区へ人が集まりにぎわいや活力を生み出します。

取組１　既存イベントを活用した地域内外の交流活性化イベントの開催

- 新たなイベントを企画し実施するのではなく、まずは既存イベントを改善・工夫（野菜販売、フリーマーケット等）
- 地域住民が参加しやすく、企画・運営にも関わりやすくなるような内容を検討（シニア世代の支援により若年層を巻き込む努力も大切）

Ⓒ 農業を元気にするプロジェクト

地域の産業を活性化させるためにも、農業が盛んという特色を活かし、中洲ブランドの特産品の開発・販売を行うことで、農業の活性化、地産地消の推進、そして中洲学区のＰＲに貢献します。また、非常に古い歴史を持つ鮨切り祭りや鮒寿司など水にまつわるユニークな食文化をＰＲし、観光等への活用を進めます。

取組１　中洲ブランド特産品の開発

- 「守山メロン」や「吉川の菊菜」は既にブランド作物として認知されている。その他の作物についてもブランド化を推進
- 今は個人で加工している製品を加工所にて連携して製品化
- 産地を明示することで中洲の情報発信にも貢献

取組２　加工所、道の駅、観光農園の整備

- フルーツランドの機能充実（交流、販売拠点としての「フルーツランド」）、観光農園の整備を推進
- 道の駅での販売員といった雇用も創出可能

取組３　「新たな担い手」活用の推進

- 遊休農地の農地集約を実施し、大規模な農地を作り「新たな担い手」を活用した農業振興

取組４　体験型農業・レンタル畑・イベント・情報発信活動

- 都会から近いという特性を活かし、体験型農業やレンタル畑事業やイベント開催を推進

取組５　地域農業の情報発信（鮓切り祭、鮒寿司に代表される伝統「食文化」の継承と情報発信）

- 「ふなずし」を外部へ向けて情報発信（ホームページやメディア、行政や観光協会と連携）
- 中洲で遊休農地を借りてメロンを生産している事例の紹介やイベントの紹介など情報発信推進
- 「農」「漁」を地元特産品として一括して開発・情報発信・販売に取り組む

Ⓓ 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

これからも安心して暮らせるまちをつくるため、行政と住民が協働して誰もが利用しやすい公共交通の実現に向けて取組みます。公共交通を維持するためには、住民に加えて他地域からの訪問客にも利用してもらうことが重要です。ビックレイク等の施設へ公共交通で来てもらえるようアクセス利便性向上に取り組むとともに、施設の利用促進も進めます。

取組１　ふれあい交通の見直し・もーりーカーの活用

- ふれあい交通をきちんとした有償サービスとして位置づけるなど、課題整理と見直しを検討
- もーりーカーのさらなる有効活用や改善策を検討

取組２　地域の力を活用した公共交通

- 地域内の資源（飲食店のマイクロバスなど）を活用した、地域で担える公共交通を検討
- 公共交通利用で店舗で割引が受けられる等、店舗と連携した利用促進策を検討
- 法体系など複雑な部分が多いため、行政と協働で推進

取組３　ビックレイク等集約施設への公共交通による交通アクセス利便性向上

- ビックレイク等の集客施設へ公共交通によるアクセス利便性を向上

取組４　ビックレイクを活用し中洲学区の特産品を販売

- ビックレイクにてスポーツ大会等の開催時に特産品を販売
- スポーツ目的での訪問者向けに農家民宿を整備し、中洲の食文化や歴史を情報発信